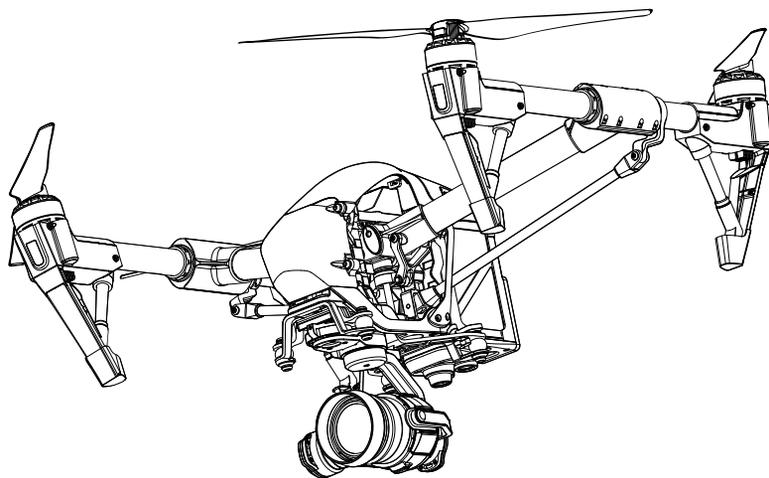


INSPIRE 1 PRO

ユーザーマニュアル V1.0

2016.03



🔍 キーワードで検索する

「バッテリー」や「取付」等のキーワードでトピックを検索してください。Adobe Acrobat Readerでお読みになる場合には、ウインドウズのCtrl+FキーかMacのCommand+Fキーを押してください。

👉 トピックへジャンプする

目次でトピックが一覧できます。トピックの上でクリックするとその項目に移動します。

このマニュアルの使い方

記号の意味

⚠ 警告

⚠ 重要

💡 ヒント

📖 参照

フライトの前に

以下のチュートリアルおよびマニュアルはお客様のInspire 1 Proを最大限に使用していただく為の物です。

1. 同梱物
2. 安全ガイドラインおよび免責事項
3. クイックスタートガイド
4. インテリジェントフライトバッテリー安全ガイドライン
5. ユーザーマニュアル

フライトの前にすべてのチュートリアルビデオの視聴、および免責事項をお読みください。その後、クイックスタートガイドを使って初回フライトの準備を行ってください。より詳細な情報についてはこのマニュアルをご参照ください。

ビデオチュートリアルを見る

Inspire 1 Pro を正しく安全にご使用いただく為にチュートリアルビデオを視聴してください。

<http://www.dji.com/product/inspire-1-pro-and-raw/video>



DJI GO アプリのダウンロード

ご使用前に DJI GO アプリをダウンロードおよびインストールしてください。

以下の QR コードをスキャンしてダウンロードしてください。

"<http://m.dji.net/djigo>" to download the app.



より良く Inspire 1 Pro をご利用いただくため、モバイル端末をご使用ください。Android V 4.1.2 以降に対応しています。iOS は 8.0 以降のバージョンが必要です。

コンテンツ

このマニュアルの使い方	2
記号の意味	2
フライトの前に	2
ビデオチュートリアルを見る	2
DJI GO アプリのダウンロード	2
製品の紹介	5
はじめに	6
主な特徴	6
機体の組立	6
ジンバルおよびカメラの取付	7
機体の図	11
送信機の図	11
機体	13
フライトコントローラー	14
フライトモード	14
フライトステータスインジケーター	14
機体ステータスインジケーターの解説	15
リターントゥーホーム (RTH)	15
ダイナミックホームポイント	17
ビジョンポジショニング	18
フライトレコーダー	20
プロペラの取付および取外し	20
DJI インテリジェントフライトバッテリー	20
送信機	25
送信機の紹介	26
送信機の手続き	26
2パイロットモード (Dual Remote Controllers Mode)	31
送信機ステータス LED	33
送信機のリンク	34
送信機のコンプライアンスバージョン	36
DJI Focus の使用	36

カメラおよびジンバル	37
カメラについて	38
ステータス LED	39
ジンバル	40
DJI GO アプリ	43
カメラ	44
ライブラリ	48
エクスプローラー	48
自分 (Me)	48
フライト	49
飛行環境条件	50
飛行制限と飛行制限区域	50
飛行前チェックリスト	54
コンバスキャリブレーション	54
自動離陸／自動着陸	55
飛行テスト	56
モーターの始動／停止	56
FAQ	58
付録	61
仕様	62
機体ステータスインジケータの説明	65
インテリジェントフライト	66
ファームウェアのアップデート	66

製品の紹介

Inspire 1 Pro の特徴、機体の組立方法、および機体と送信機の構成を説明します。

製品の紹介

はじめに

Inspire 1 Pro は、ワンパッケージで 4K の映像撮影および複数の装置へ HD ビデオシグナルの送信を可能にした、まったく新しいクアッドコプターです。上下に動く可動式のランディングギアにより、カメラから 360° さえぎる物のない映像撮影を可能にしました。カメラは非常にコンパクトなデザインかつ安定性と重量/バランスを最大限に引き出したジンバルに搭載されています。GPS シグナルが受信不可能になっても“ビジョンポジショニング”技術により、安定したホバリングを行うことができます。

主な特徴

Inspire 1 Pro は、箱から出せばすぐフライトができる空撮用のプロフェッショナルなプラットフォームです。15mm f/1.7 (35mm 換算値: 30mm) レンズと 3 軸ジンバルを備えた内蔵カメラにより、16MP のシャープな写真や最大 4K の動画を安定して撮影することができます。可動式ランディングギアが視界 360° さえぎる物のない映像撮影を可能にしています。

HD ビデオダウンリンク：強化された DJI ライトブリッジにより、低遅延の HD ダウンリンクを実現。2 パイロットモード（デュアルコントロールモード）も可能。

ランディングギア：可動式のランディングギア採用により空中ではカメラをさえぎる物のないパノラマ風景の撮影を可能に。

DJI インテリジェントフライトバッテリー：4500mAh DJI インテリジェントフライトバッテリーは、新しいバッテリーセルおよびバッテリーマネジメントシステムを採用。

フライトコントローラー：次世代フライトコントローラーシステムが、より安心なフライト経験を可能にしました。新しいフライトレコーダーがフライト毎の飛行データを保存し、ビジョンポジショニングシステムにより GPS シグナル低下時でも安定したホバリングを行います。

機体の組立

トラベルモードの解除方法

機体は出荷時に下図のようなトラベルモードになっています。次の手順に従って、初回フライトの前にランディングモードに切り替えてください。

1. インテリジェントフライトバッテリーを所定の位置に取り付けてください。
2. 送信機およびインテリジェントフライトバッテリーの電源を入れてください。
3. トランスフォーメーションスイッチを上下に 4 回以上動かしてください。
4. 機体の電源を切ってください。



- ⚠
- トラベルモードの解除前に必ずバッテリーをフル充電してください。詳細は P23 の「インテリジェントフライトバッテリーの充電」を参照してください。
 - 2 台の送信機のタイプをご購入されている場合、トラベルモードを解除するにはマスター送信機を使用する必要があります。詳細は P32 の「2パイロットモードの設定」を参照してください。
 - ランディングモードからトラベルモードへ切り替える際には、事前にジンバルを取り外しておいてください。
 - トラベルモードからランディングモードへ切り替える際には、機体を滑らかな反射面（テーブル、タイル等）に置くようにし、表面が粗く、音を吸収するもの（カーペット等）の上には置かないでください。

ジンバルおよびカメラの取付

ここでは DJI MFT 15mm f/1.7 ASPH のイラストを使ってレンズの取付方法を説明します。取り付ける前にバッテリーの電源を切ってください。

1. ジンバルカバーを取外してください。
2. レンズ解除ボタンを押したまま、ジンバルロックをロック解除の位置に回転させてください。
3. レンズカバーと後ろのカバーを外してください。



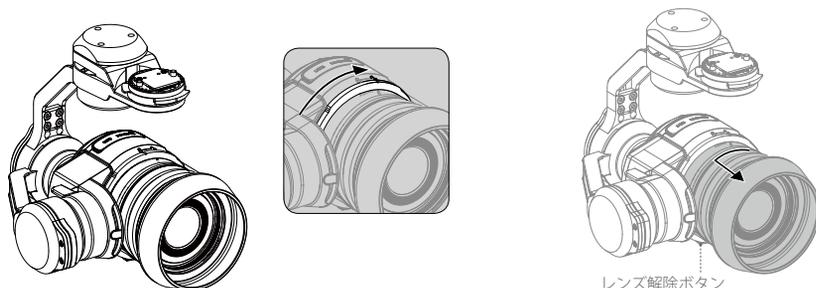
- ⚠ Zenmuse X5 は以下のレンズに対応しています。対応レンズの種類は今後さらに増える見込みです。
- DJI MFT 15mm f/1.7 ASPH
 - Panasonic Lumix G Leica DG Summilux 15mm f/1.7 ASPH
 - Olympus M.Zuiko Digital ED 12mm f/2.0
 - Olympus M.Zuiko 17mm f/1.8 (バランスリングは、DJI ストアで近日販売開始します)

4. カメラ本体とレンズにある2つのマークを合わせます。カメラ本体にレンズを差し込みます。
5. クリック音が聞こえるまでレンズを時計回りに回転させます。
6. レンズを時計と反対回りに回すとロックします。
7. バランスリング（もしくはフィルター）とレンズフードを取り付けます。
8. Micro SD カードを挿入します。



レンズを外す時は、まず電源を切ります。

1. レンズ解除ボタンを押したまま、レンズロックを時計回りに回すとロックを解除できます。
2. レンズ解除ボタンを押したまま、レンズを反時計回りに回すと取り外せます。



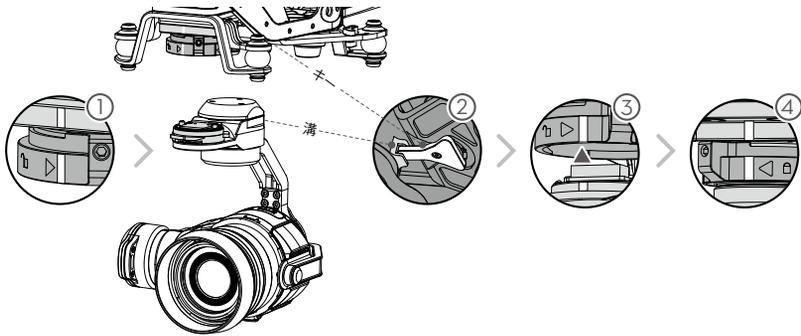
- ⚠
- 空撮用にはレンズ周りをダストカバーで覆うことをお勧めします。DJI 指定のダストカバーを取り付けられるレンズは、DJI MFT 15mm f/1.7 ASPH および Panasonic Lumix G Leica DG Summilux 15mm f/1.7 ASPH です。Olympus M.Zuiko Digital ED 12mm f/2.0 には、必要に応じて適切なダストカバーをご購入ください。
 - レンズを取り付けた後、レンズロックをしっかり締めてください。こうすることで、飛行時に機体の動きによるレンズの振動が低減されます。レンズの取付、取り外しをおこなう前には常にレンズロックを緩めてください。
 - カメラのバランスリングにフィルターを取り付けることができます。重量規格を満たすフィルターをお使いください。
 - レンズフードが取り付けられるレンズは、DJI MFT 15mm f/1.7 ASPH と Panasonic Lumix G Leica DG Summilux 15mm f/1.7 ASPH のみになります。Olympus M.Zuiko Digital ED 12mm f/2.0 にはレンズフードを取り付けないでください。
 - レンズは AF モードに設定してください。
 - レンズロックを解除する際には、常にレンズ解除ボタンを押したままでレンズロックを回してください。

- ☀️ フィルターは7～11 gの重さのものが必須ですが、最適な重量は10～11gのフィルターです。この重量範囲を超えたフィルターを使うとジンバルの性能が落ちます。DJI MFT 15mm f/1.7 ASPHは、46mmサイズのフィルターに対応しています。フィルターを使わない場合には、レンズにバランスリングを取り付けてください。

Zenmuse X5 の取り付け方法

機体の電源を切ってください。

1. ジンバルロックをロック解除の位置に回転させてください
2. ジンバルのパン軸モーターの溝に、ダンピングプレート（図）のキーを合わせます。
3. ジンバルコネクターとジンバルロックを白いマークに合わせ、ジンバルコネクターを挿入します。
4. ジンバルロックを回転させロック位置に戻します

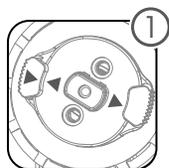
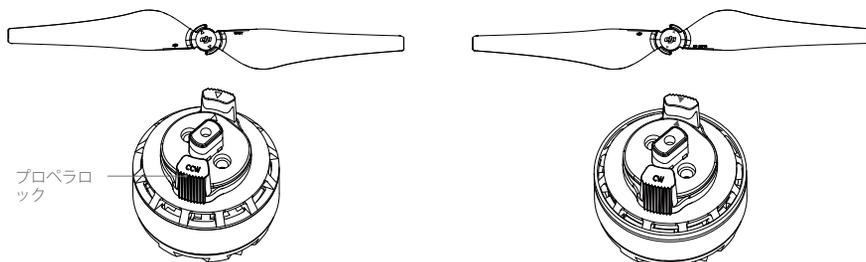


- ⚠️ Zenmuse X5 の取付、格納時にジンバルコネクターや金属部を傷つけないように注意してください。

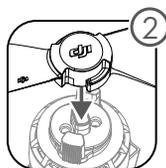
1345T クイックリリースプロペラの取付

1345T クイックリリースプロペラの取付方法を説明します。

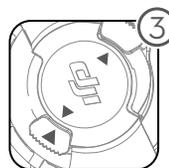
1. プロペラとモーターは、同色の矢印がついたものがペアになります（赤または白）。



矢印を合わせ、クリック音が聞こえるまでプロペラロックを回してください。



プロペラをモーターに取り付けてください。

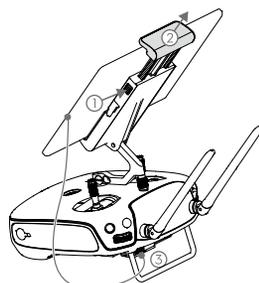
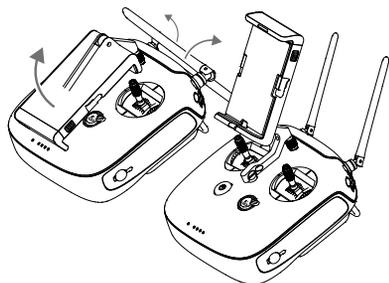


もう一度、クリック音が聞こえるまでプロペラロックを回してください。

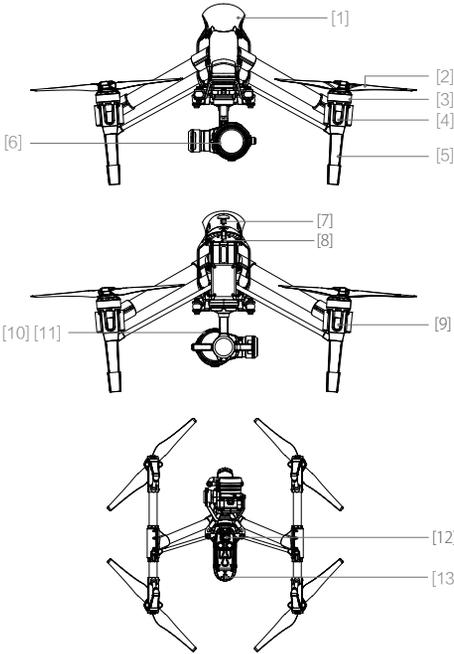
送信機の準備

モバイル端末ホルダーを傾け、アンテナを下図のように立ててください。

1. モバイル端末ホルダーの側面のボタンを押してクランプを外し、ご使用のモバイル端末を固定してください。
2. ご使用のモバイル端末を USB ケーブルで送信機に接続します。
3. ケーブルの片方をモバイル端末に接続し、もう片方を送信機の裏側の USB ポートに接続してください。

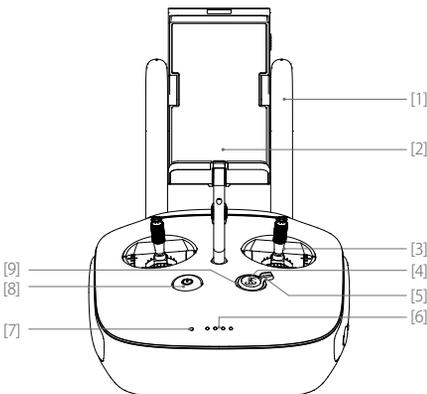


機体の図



- [1] GPS
- [2] プロペラ (P20)
- [3] モーター
- [4] フロント LED (P14)
- [5] ランディングスキッド
- [6] ジンバルおよびカメラ (P37)
- [7] インテリジェントフライトバッテリー (P20)
- [8] 機体 Micro-USB ポート
- [9] リヤ LED (P14)
- [10] カメラ Micro-USB ポート
- [11] カメラ Micro-SD カードスロット (P38)
- [12] ビジョンポジショニングセンサー (P18)
- [13] 機体ステータスインジケータ (P15)

送信機の図



- [1] アンテナ (P31)
機体コントロールおよびビデオ信号を中継します。
- [2] モバイル端末ホルダー
ご使用のモバイル端末を設置する場所です。
- [3] コントロールスティック
機体の操作をします。
- [4] リターントゥーホーム (RTH) ボタン (P15)
ボタンを押したままにしてリターントゥーホーム (RTH) を開始します。
- [5] トランスフォーメーションスイッチ (P29)
スイッチを上下にトグルしてランディングスキッドの上下操作を行います。

[6] バッテリー残量表示 LED

現在のバッテリー残量を表示します。

[7] ステータス LED

電源ステータスを表示します。

[10] カメラセッティングダイヤル

カメラ設定を調節するためにダイヤルを回してください。

送信機と DJI GO アプリが起動しているモバイル端末が接続されているときのみ機能します。

[11] 再生ボタン

撮影した写真やビデオを再生します。

[12] シャッターボタン

ボタンを押すと写真を撮影することができます。バーストモードの時には、ボタンを一度押すと設定した枚数の写真が撮影されます。

[13] フライトモードスイッチ

P、A、および F モードに切り替えるときに使用します。

[14] ビデオレコーディングボタン

ボタンを押すとビデオ撮影を開始します。もう一度押すと撮影を停止します。

[15] ジンバルダイヤル

このダイヤルを使ってジンバルのチルト動作のコントロールをします。

[16] ミニ HDMI ポート

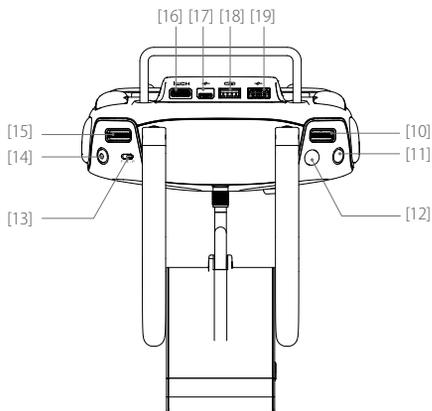
カメラからのライブ HD ビデオプレビューを表示するために、外部の HD 液晶モニターを接続します。

[8] 電源ボタン

送信機の電源オン/オフ

[9] RTH LED

RTH ボタンを囲む LED は RTH ステータスを表示します。



[17] Micro-USB ポート

送信機をお使いのコンピューターに接続するためのポートです。

[18] CAN バスポート

予備ポート

[19] USB ポート

DJI GO アプリへアクセスするためにモバイル端末を接続します。

[20] GPS モジュール

送信機の場所をピンポイントで示すために使います。

[21] バックレフトボタン

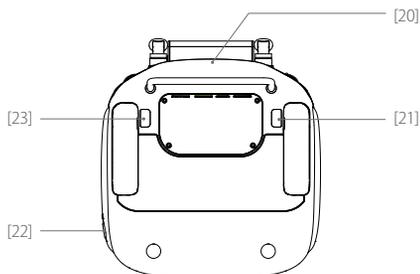
DJI GO アプリから設定できるカスタムボタンです。

[22] 電源ポート

送信機の内蔵バッテリーを充電するために接続します。

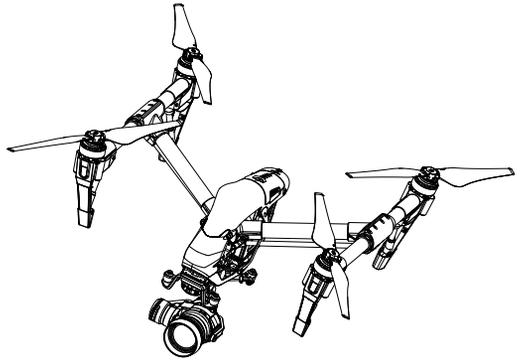
[23] バックライトボタン

DJI GO アプリから設定できるカスタムボタンです。



機体

フライトコントローラー、ビジョンポジショニングシステム、およびインテリジェントフライトバッテリーについて説明します。



機体

フライトコントローラー

Inspire 1 Pro のフライトコントローラーは新たなフライトモードおよびセーフティーモード等、複数の改良を加えた DJI フライトコントローラーをベースにしています。フェイルセーフ、リターントゥーホーム (RTH)、およびダイナミックホームポイントの3つのセーフティーモードがご使用いただけます。これらの機能は、もしコントロールシグナルを失った場合にお客様の機体を安全に帰還させます。フライトレコーダーが各フライトの重要なフライトデータを記録します。

フライトモード

3つのフライトモードがご使用いただけます。各フライトモードの詳細は以下のとおりです。

Pモード (Positioning : ポジショニング) : PモードはGPSシグナルが強いときに最も有効です。3つの異なるPモードがあり、GPSシグナルの強さおよびビジョンポジショニングセンサーの状況に応じて自動的に切り替わります。

P-GPS : GPS およびビジョンポジショニングの両方が有効の時。機体は位置の把握にGPSを使用します。

P-OPTI : ビジョンポジショニングが有効でGPSシグナルが無効の時。ホバリングの為にビジョンポジショニングのみ使用。

P-ATTI : GPS およびビジョンポジショニングの両方が無効の時。位置の把握の為に気圧センサーのみを使用するので、高度だけは自動制御されます。

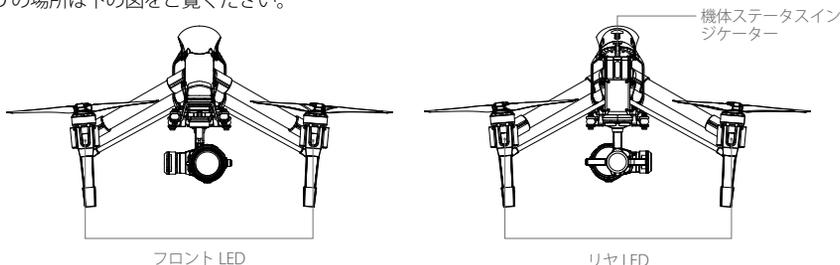
Aモード (Attitude : 姿勢) : GPS およびビジョンポジショニングシステムは位置の把握の為に使用されません。高度を維持する為に気圧センサーのみを使用します。引き続きGPS信号が捕捉できており、ホームポイントが正しく記録されていれば、送信機の信号が途絶えた場合でも機体は自動的にホームに帰還することが出来ます。

Fモード (Function : 機能) : このモードではインテリジェントオリエンテーションコントロール (IOC) が使用できます。IOCに関する詳細は、付録の「インテリジェントオリエンテーションコントロール (IOC)」を参照してください。

 フライトモードスイッチを使って機体のフライトモードを切り替えてください。
詳細はP29の「フライトモードスイッチ」を参照してください。

フライトステータスインジケーター

Inspire 1 Pro はフロントLED、リヤLED、および機体ステータスインジケーターを搭載しています。各LEDの場所は下の図をご覧ください。



フロントLEDおよびリヤLEDは機体の方向を示します。前方LEDは赤色に点灯し、リヤLEDは緑色に点灯します。

機体ステータスインジケーターはフライトコントローラーのシステムステータスを示します。

機体ステータスインジケーターの詳細は次の表を参照してください。

機体ステータスインジケータの解説

ノーマル

	赤、緑、および黄色が交互に点滅	電源オンおよびセルフチェック
	緑および黄色が交互に点滅	機体ウォーミングアップ
	緑がゆっくりと点滅	安全にフライトできる (GPS およびビジョンポジショニングが有効な P モード)
	X2 緑に 2 回点滅	安全にフライトできる (ビジョンポジショニングが有効だが GPS は無効な P モード)
	黄色くゆっくりと点滅	安全にフライトできる (GPS およびビジョンポジショニングが無効な A モード)

警告

	黄色くはやく点滅	送信機のシグナルロスト
	赤くゆっくり点滅	ローバッテリー警告
	赤くはやく点滅	致命的なローバッテリー警告
	赤く交互に点滅	IMU エラー
	赤く点灯	致命的なエラー
	赤および黄色が交互に点滅	コンパスキャリブレーションが必要

リターントゥーホーム (RTH)

リターントゥーホーム (RTH) は、最後に記録されたホームポイントへ機体を自動帰還させます。RTH には、スマート RTH、ローバッテリー RTH、フェイルセーフ RTH の 3 つがあります。

目	GPS	説明
ホームポイント		GPS シグナル強度が強い時は、ホームポイントは機体が離陸した場所となります。GPS シグナル強度はこのアイコンで確認する事が出来ます。 ダイナミックホームポイントを使用している際には、ホームポイントは操縦者の現在位置へと随時更新されます。その際、機体ステータスインジケータは緑点滅となります。

スマート RTH

スマート RTH は GPS が有効な場合に、送信機の RTH ボタン (P30 を参照) または DJI GO アプリの RTH ボタンから起動することが出来ます。機体は最後に記録されたホームポイントに帰還します。スマート RTH 中に機体方向を操作して障害物などの衝突を避けることができます。スマート RTH ボタンを押してプロセスを開始します。

もう一度スマート RTH ボタンを押すとスマート RTH が終了し、コントロールを取り戻します。

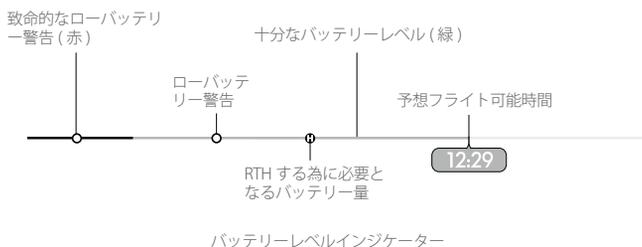
ローバッテリー RTH

ローバッテリー RTH は、機体バッテリー残量が機体の帰還に影響が出るかもしれない量まで減

少しした場合に作動します。このとき、ユーザーはリターンホームを行うかすぐに着陸させるかの通知を受けます。ローバッテリー RTH が作動した際、DJI GO アプリ上にホームポイントへ機体に戻すよう通知が出ます。通知があつてから 10 秒間の間に何も行わなかった場合、機体は自動的にホームポイントへの帰還を開始します。RTH ボタンを押すことで、RTH をキャンセルすることが出来ます。これらの警告が出るバッテリー残量の限界点は、現在の機体の高度およびホームポイントまでの距離に応じて自動的に決定されます。

現在のバッテリー残量から考えてホームポイントへの帰還が難しい場合、自動的にその場に着陸させます。着陸動作の間、送信機で機体の向きを変えることが出来ます。

バッテリーレベルインジケータは DJI GO アプリに表示されます。詳細は次のようになっています。



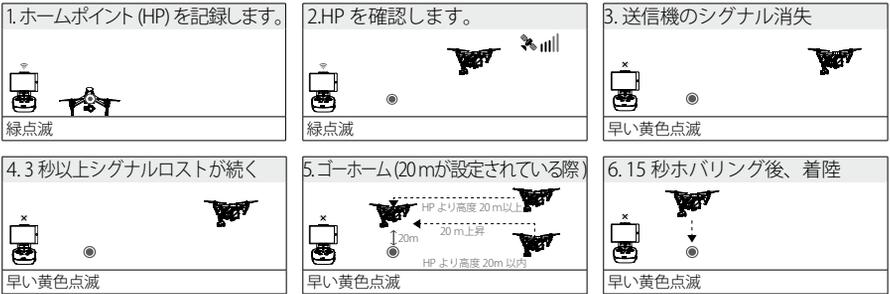
バッテリーレベル警告	説明	機体ステータスインジケータ	DJI GO アプリ	飛行説明
ローバッテリー警告	バッテリーが減っています。着陸させてください。	ゆっくり赤点減	“Go-home” を押すとホームポイントへ帰還後着陸させ、“Cancel” を押すと飛行を続けます。どちらも押さずに 10 秒が経過すると機体は自動的にホームポイントへ帰還を開始します。アラームが鳴ります。	なるべく早く機体に戻して着陸させ、モーターを停止し、バッテリーを交換してください。
致命的なローバッテリー警告	直ちに機体を着陸させてください。	早い赤点減	DJI GO アプリ画面が赤く点滅し機体は降下を開始します。アラームが鳴ります。	機体は自動的に降下を開始し、着陸します。
予想フライト可能時間	現在のバッテリー残量に応じた予想フライト可能時間	N/A	N/A	N/A

- ☀️ • 致命的なローバッテリー警告が作動し機体が自動降下を行っている間、より適切な場所へ着陸させるためにスロットル操作でホバリングを行う事が出来ます。
- バッテリーレベルインジケータのカラーゾーンとマーカーは、機体の現在の状況による推定飛行可能時間が反映され、自動的に更新されます。

フェイルセーフ RTH

送信機シグナル（映像伝送信号を含む）が3秒以上ロストした場合、フェイルセーフ RTH 機能が自動で働きます（ホームポイントが正しく記録され、コンパスが問題なく動いている必要があります）。送信機シグナルが回復した場合、リターントゥーホームは中止され、操縦者は再度操縦を行う事が可能となります。

フェイルセーフ図解

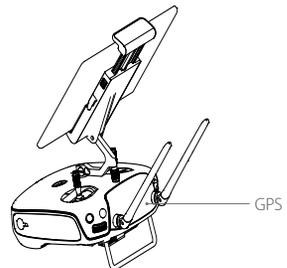


- ⚠️ • ホームポイントから半径 20メートル以内を飛行している時、リターントゥーホームが作動すれば機体は自動的に降下します。
- フェイルセーフ RTH の最中に機体は障害物を避けることが出来ないため、フライト毎にフェイルセーフ高度を設定する事が大切です。DJI GO アプリを立ち上げカメラビューに入り、“MODE” からフェイルセーフ高度を設定してください。
- フェイルセーフの時、機体が高度 20メートルを超えた場合にスロットルスティックを動かすと、機体は上昇を中止し、直ちにホームポイントに帰還します。

ダイナミックホームポイント

ダイナミックホームポイントは、あなたが動き回ったり、離陸場所とは異なるホームポイントが必要な場合に有効です。GPS モジュールは下図の場所に入っています。

- ⚠️ ダイナミックホームポイントを使用している際には、GPS モジュールの上部を覆わないようにしてください。



ダイナミックホームポイントには2つのオプションがあります。

1. 機体の現在の座標を新しいホームポイントとします。
2. 送信機の座標を新しいホームポイントとします。

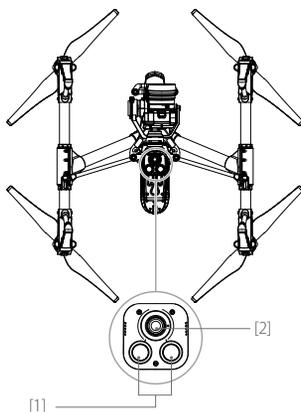
ダイナミックホームポイントの設定

ダイナミックホームポイントを以下の手順で設定します。

1. モバイル端末を接続し、DJIパイロットアプリのカメラページを立ち上げます。
2.  をタップし、 を選択すると、送信機の現在座標を新しいホームポイントとします。
3.  をタップし、 を選択すると、機体の現在座標を新しいホームポイントとします。
4. ホームポイントの設定が成功すると、フライトステータスインジケーターが緑に点滅します。

ビジョンポジショニング

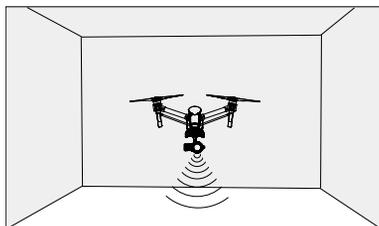
ビジョンポジショニングは現在位置を認識するため、超音波と映像データを使用します。ビジョンポジショニングによって、室内などGPSが捕捉できないような環境でもより正確にホバリングすることが出来ます。ビジョンポジショニングはInspire 1 Proの下部に付いていて、[1]2つの音波センサー [2]単眼カメラから構成されています。



ビジョンポジショニングの使用

ビジョンポジショニングは、Inspire 1 Proの電源を入れると自動的に起動します。手動で何かをする必要はありません。

主にGPSが使用できない屋内などで使用されます。センサーを使用する事でGPSが無くても正確なホバリングを行う事ができます。



ビジョンポジショニングを使用する際の手順

1. 右図のようにフライトモードスイッチをPへ切り替えます。
2. 平らな地面に機体を置きます。ビジョンポジショニングはパターン模様の無い地面では正確に動作しません。
3. 機体の電源を入れます。ビジョンポジショニングが準備完了の際、フライトステータスインジケータは緑色に2度点滅します。ゆっくりスロットルを上げ、機体をホバリングさせてください。



⚠ Inspire 1 Pro のビジョンポジショニングシステムの性能は、飛行している地面の状態に影響されます。超音波は音を吸収する材質の上では正確に距離を測定することが出来ないことがあり、カメラは環境によっては正しく動作しないこともあります。GPS とビジョンポジショニングシステムの両方が使用できない場合、機体は自動で P モードから A モードへと切り替わりますので、次にあげるような環境で使用するには注意して機体操作を行ってください。

- 単色の地面の上を飛ばす際（黒、白、赤、緑など）
- 反射率の高い地面の上を飛ばす際
- 高速（高度 2 メートルで 8m/s 以上、高度 1 メートルで 4m/s 以上）での飛行中
- 水や透明な地面の上を飛ばす際
- 動いている地面や物の上を飛ばす際
- 光源が頻繁に変化したり、大幅に変化する場所を飛ばす際
- 極端に暗い（10ルクス未満）、明るい（100,000ルクス以上）地面の上を飛ばす際
- 音を吸収する素材の上を飛ばす際（毛足の長いカーペットの上など）
- はっきりしたパターンや模様のない地面の上を飛ばす際
- 同一の反復するパターンや模様の上を飛ばす際（すべて同じデザインのタイルの上など）
- 超音波をまっすぐ反射できないような、傾いている地面の上を飛ばす際
- 送信機のシグナルロスが発生した場合、8 秒間ホバリングしてから P モードになっていれば自動で着陸します。

- ☀
- センサーは綺麗に保ってください。泥などがセンサーの動作に悪影響を及ぼす可能性があります。
 - 効果的な機体高度は 2.5 メートルまでです。
 - 水上では正しく動作しません
 - 100ルクス未満の暗い所では、地面のパターンを正しく認識できないことがあります。
 - ビジョンポジショニングが起動している時に、40 KHz の超音波を使用する機器を同時に使用しないでください。
 - 地面に近い高度（0.5 m 以下）を高速で飛んでいる際には、ビジョンポジショニングでは機体を安定させることはできません。

- ⊙
- ビジョンポジショニングが起動している時はペットを遠ざけてください。音波センサーが発する音は一部ペットの可聴域に含まれています。

フライトレコーダー

フライトデータはSDカードへと自動的に保存されます。ユーザーはDJI GOアプリからデータにアクセスできます。フライト時間、回転、距離、機体情報、速度などが記録されます。

プロペラの取付および取外し

プロペラの取付

詳細はP10の「プロペラの取付」を参照してください。

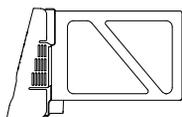
プロペラの取り外し

プロペラロックを解除し、取り外してください。

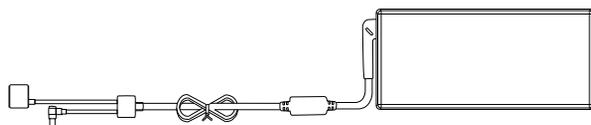
-
- ⚠
- ・フライト毎にプロペラが正しいか、しっかり付いているかを確認してください。
 - ・プロペラに破損等が見られないか確認してください。劣化、欠け、破損の見られるプロペラは使用しないでください。
 - ・けがを防ぐ為、モーターやプロペラが回転している時に触ったり、近づいたりしないでください。
 - ・安全かつ快適に運用するためにも、DJI純正のプロペラ以外は使用しないでください。
-

DJI インテリジェントフライトバッテリー

DJI インテリジェントフライトバッテリーは、容量 4500 m Ah、電圧 22.2V です。DJI 純正のチャージャーでのみ充電できます。



インテリジェントフライトバッテリー



チャージャー

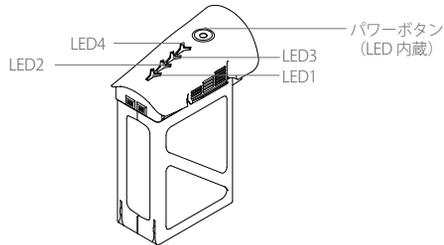
-
- ⚠ 初使用の際はフル充電を行ってください。詳細はP23の「インテリジェントフライトバッテリーの充電」をご確認ください。
-

DJI インテリジェントフライトバッテリーの機能

1. バッテリー残量表示：LED が現在のバッテリー残量を表示します。
2. バッテリー寿命表示：LED がバッテリーの寿命を表示します。
3. 自動放電：10 日以上使用されていない時、バッテリーの膨らみを防止する為、容量の 65% まで自動放電を行います（電源ボタンを押してバッテリー残量を確認するとアイドル状態は解除されます）。65%まで放電を行うのには 2 日程かかります。放電中は熱を発生します。DJI パイロットアプリで何%まで放電を行うかの設定が可能です。
4. バランス充電：充電時にセル電圧が一定になるよう充電します。
5. 過充電保護：フル充電になった際、過充電を防ぐため充電を停止します。
6. 温度検知：バッテリー温度が 0℃～40℃の間の時にのみ充電を行います。
7. 過電流保護：過電流 (10A 以上) が検知された際に充電を停止します。
8. 過放電保護：過放電による破損を防ぐため、電圧が 18V まで下がった際に放電を停止します。
9. ショート保護：ショートが検出された際、通電をストップします。
10. セル破損保護：バッテリーのセルの破損が検知された際、DJI GO アプリに警告を表示します。
11. バッテリーエラー履歴：バッテリーのエラー履歴を直近 32 件まで DJI GO アプリから確認できます。
12. 休止モード：10 分間動作が無い場合、休止モードとなり電力をセーブします。
13. 対話性：電圧、容量、現在の状況などの情報をメインコントローラーへ送ります。

⚠ 使用前に免責事項とインテリジェントフライトバッテリー安全ガイドラインを読んでください。使用や操作に関し、使用者がすべての責任を負う事とします。

バッテリーの使用



パワーオン / オフ

パワーオン：一度パワーボタンを押します。その後 2 秒押し続けます。パワー LED が赤に点灯し、バッテリーレベルインジケーターが現在のバッテリー残量を表示します。

パワーオフ：一度パワーボタンを押します。その後 2 秒押し続けます。

低温環境での注意点：

1. 低温環境下 (<5℃) での飛行時は電池容量が大幅に低減します。バッテリーをフル充電し、4.35V の電圧でお使いください。
2. 非常に低い温度 (<-10℃) の環境下での使用は推奨いたしません。-10℃～5℃の環境下で使用するには、電圧が適切なレベル (4.2V 以上) にまで達する必要があります。温度が急激に低下しないように、バッテリーに同梱の断熱ステッカーを貼ることをお勧めします。
3. 低温環境で飛ばしている際に DJI GO アプリにローバッテリー警告が出た際は、即座に飛行を中止し

- てください。警告が出ても機体は操作できます。
- 低温環境でバッテリーを使用する前には、バッテリーを室内に置いて 5℃以上になるまで温めてください。
 - 低温環境でバッテリーを使用する場合には、バッテリーを温めるため、まず始めに低い高度で機体をホバリングさせてください。
 - バッテリーの性能を発揮させるために、バッテリー本体の温度を 20℃以上に保ってください。

⚠ 寒い環境では、離陸前にバッテリーを機体に装着した状態で 1、2 分機体をウォームアップしてください。

バッテリー残量の確認

バッテリーレベルインジケータは、どれくらいの電力が残っているかを表示します。バッテリーの電源がオフの時に一度パワーボタンを押すと、現在のバッテリー残量を表示します。詳細は次の表をご覧ください。

☐ バッテリーレベルインジケータは充電、放電中も現在のバッテリーレベルを表示します。図の詳細は次の通りです。

 : LED が点灯している
 : LED が消灯している

 : LED が点滅している

バッテリーレベル				バッテリー残
LED1	LED2	LED3	LED4	
				87.5%~100%
				75%~87.5%
				62.5%~75%
				50%~62.5%
				37.5%~50%
				25%~37.5%
				12.5%~25%
				0%~12.5%
				=0%

バッテリー寿命

バッテリー寿命の表示により、あとどれくらいバッテリーが使用可能かがわかります。バッテリーの電源が入っていない場合、パワーボタンを 5 秒間押し続けることで寿命の確認が出来ます。バッテリーレベルインジケータが 2 秒間点灯や点滅を行い、寿命の表示を行います。

バッテリー寿命

LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー寿命
☞	☞	☞	☞	90%~100%
☞	☞	☞	☞ [*]	80%~90%
☞	☞	☞	☞	70%~80%
☞	☞	☞ [*]	☞	60%~70%
☞	☞	☞	☞	50%~60%
☞	☞ [*]	☞	☞	40%~50%
☞	☞	☞	☞	30%~40%
☞ [*]	☞	☞	☞	20%~30%
☞	☞	☞	☞	20%未満

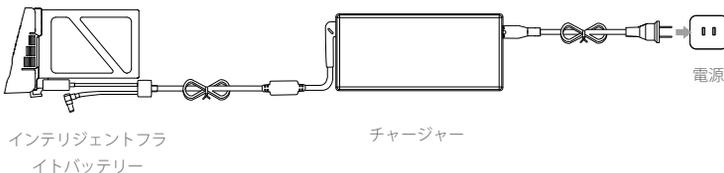
⚠ バッテリー寿命が0%へ到達していたらそのバッテリーは使用できません。

📖 バッテリーに関してのより詳細な情報は、DJI GO アプリのバッテリーをご確認ください。

インテリジェントフライトバッテリーの充電

1. バッテリーチャージャーを電源へ接続します。(100-240V 50/60Hz)
2. プロテクトキャップを外し、バッテリーをチャージャーへ接続します。バッテリー残量が95%以上の場合、バッテリーの電源を入れてから接続してください。
3. 充電中に、バッテリーレベルインジケータに現在の残量が表示されます。
4. バッテリーレベルインジケータの点灯が無くなったら、充電完了となります。
5. フライト後にはバッテリーを冷ましてください。長期間使用しない場合、バッテリーは常温で保存してください。

- ⚠
- インテリジェントフライトバッテリーと送信機を通常のチャージャー(モデル:A14-100P1A)で同時に充電しないでください。チャージャーがオーバーヒートしてしまいます。
 - 機体にバッテリーを抜き差しする際にはバッテリーの電源を切ってください。絶対に電源が入ったまま行わないでください。



充電中のバッテリーレベルインジケータ				
LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
				0%~25%
				25%~50%
				50%~75%
				75%~100%
				充電完了

保護機能の LED 表示

下図はバッテリー保護機能とそれに対応している LED のパターンです。

充電中のバッテリーレベルインジケータ					
LED1	LED2	LED3	LED4	点滅パターン	バッテリー保護の内容
				LED2 が 1 秒間に 2 回点滅	過電流
				LED2 が 1 秒間に 3 回点滅	ショート
				LED3 が 1 秒間に 2 回点滅	過充電
				LED3 が 1 秒間に 3 回点滅	過電圧
				LED4 が 1 秒間に 2 回点滅	充電環境温度が低すぎる (0°C未満)
				LED4 が 1 秒間に 3 回点滅	充電環境温度が高すぎる (40°C以上)

上記の保護の問題が解決された場合、パワーボタンを押してバッテリーの残量表示状態をオフにします。充電器からインテリジェントフライトバッテリーを取り外し、充電を再開するために再度差し込み充電を行います。

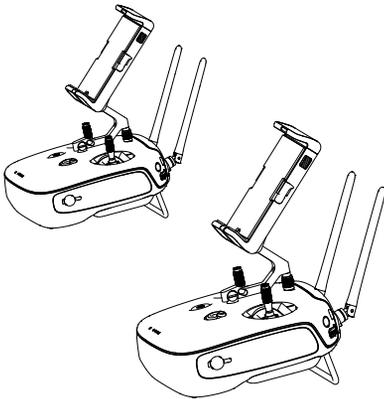
室温エラーが発生した場合には、バッテリーの抜き差しを行う必要はありません。温度が正常範囲内になると充電を再開します。

DJIは純正ではない充電器を使用してのいかなる問題に関しても責任を持ちません。

- インテリジェントフライトバッテリーの放電方法：
 バッテリーの容量を効果的に調整するには、充電と放電を 1 セットとして 10 セット毎の周期でフル充電と完全放電をおこなうことを推奨します。バッテリーを機体に装着し電源を入れ、放電プロセスを開始します。機体の電源が自動的に切れるまでバッテリーの放電を続けます。その後、バッテリーが最大限に使えるようフル充電します。
 スロー：バッテリーを Inspire 1 Pro に搭載し、電源を入れます。残量が 5%未満になるか、電源が入らなくなるまで放置します。残量は DJI GO アプリで確認できます。
 クイック：残量が 5%未満になるか、電源が入らなくなるまで Inspire 1 Pro を飛ばします。

送信機

送信機の特徴、機体やカメラの操作、2
パイロットモードについて説明します。



送信機

送信機の紹介

Inspire 1 Pro の送信機は、映像受信、機体の操縦などが統合された多機能のワイヤレスデバイスです。映像受信と機体操縦は 2.4GHz 帯 (日本国内仕様) を使用し、理想的な環境では伝送距離は 3.5km となります。送信機は、写真や映像の撮影やモニタリング、ジンバルのコントロールなどカメラに関する様々な機能を備えています。2S の充電式電池で稼働します。

現在のバッテリー残量は送信機の前面のパネルに表示されます。

- ☑️ • コンプライアンスバージョン：CE と FCC のどちらにも対応しています。
- 操作モード：Mode1、Mode2 に対応しています。
- Mode 1：右スティックがスロットル操作となります。
- Mode 2：左スティックがスロットル操作となります。

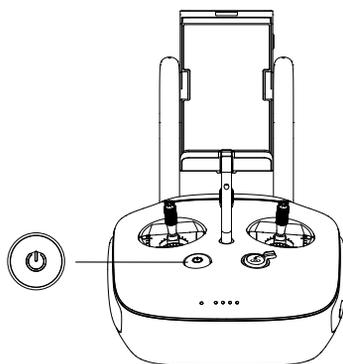
- ⚠️ 伝送干渉を防ぐために、同じエリア内 (サッカー場に相当するエリア) では 3 機以上の機体を同時に飛ばさないでください。

送信機の操作

送信機の電源の入れ方、切り方

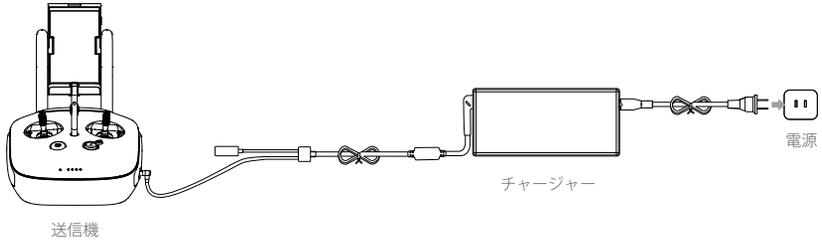
Inspire 1 Pro の送信機は、充電式の 2S 6000 m Ah のバッテリーで稼働します。バッテリー残量はフロントパネル前面にある、バッテリー残量 LED に表示されます。次の手順に従って電源を入れてください。

1. 電源がオフの時、電源ボタンを一度押すと現在のバッテリー残量が表示されます。
2. その後、もう一度押して長押しをしていると送信機が起動します。
3. 起動時にピープ音が鳴ります。機体とのリンク中はステータス LED が緑色 (スリーブ送信機は紫) で早く点滅し、接続が確立すると緑色の点灯となります。
4. 電源を切る際は 2 の項目を繰り返します。



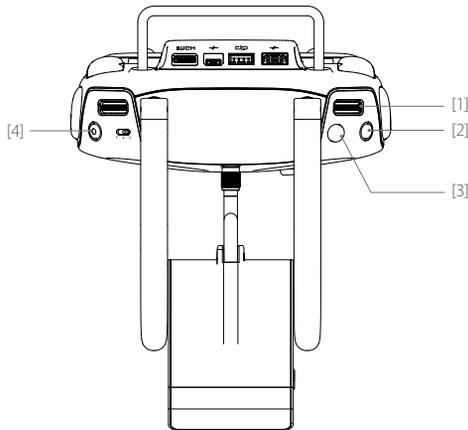
送信機の充電

送信機の充電は同梱されているチャージャーを使用します。



カメラ操作

送信機にあるシャッターボタン、カメラセッティングダイヤル、再生ボタン、ビデオレコーディングボタンを使用して、写真や映像の撮影、カメラ設定の調整を行うことができます。



[1] カメラセッティングダイヤル

このダイヤルで、ISO やシャッター速度、露出などのカメラ設定を送信機から手を放すことなくすぐに変更出来ます。再生モードの際はダイヤルを左右に動かすことで写真や映像を見ることが出来ます。

[2] 再生ボタン

このボタンを押すことで撮影済みの写真や映像を見る事が出来ます。

[3] シャッターボタン

このボタンを押すことで写真を撮ることが出来ます。バーストモードの際は、一度押すだけで複数枚撮影します。

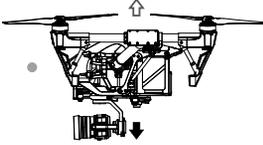
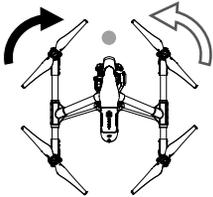
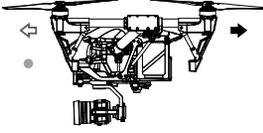
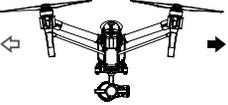
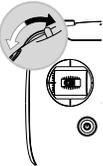
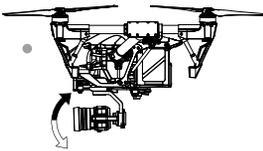
[4] ビデオレコーディングボタン

一度押すことで録画を開始し、もう一度押すと録画を停止します。

機体操作

送信機のさまざまな機能を使用する方法について説明します。
送信機は出荷時はモード 1 に設定されています。

- ☐ スティックのセンターポイント：普段はコントローラーのスティックは中央に位置しています。スティックを動かす：スティックを押して中央から動かします。

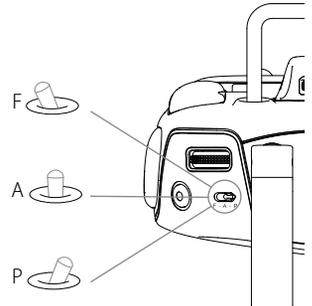
送信機 (モード 1)	機体 (●機首方向を表します)	説明
		<p>右スティックの上下操作で機体を上昇下降させます。スティックを上に戻すと機体を離陸させます。スティックが中央にある場合、機体はその場でホバリングを行います。スティックの入力度合いにより、上昇下降の速度は増減します。スティック操作はあまり大きく動かさず慎重に行うようにします。</p>
		<p>左スティックの左右操作で機体を旋回させます。スティックを左に倒すと機体は反時計回りに旋回し、スティックを右に倒すと機体は時計回りに旋回します。スティックが中央にある場合、現在の方向を向き続けます。スティックの入力度合いにより、旋回速度は増減します。</p>
		<p>左スティックの上下操作で機体を前進後退させます。スティックを上に戻すと機体は前進し、スティックを下に戻すと機体は後退します。スティックが中央にある場合、機体はその場でホバリングを行います。スティックを大きく倒すことで機体は大きく傾き(最大 35°)、高速で飛行します。</p>
		<p>右スティックの左右操作で機体を左右に移動させます。スティックを右に倒すと機体は右に移動し、スティックを左に倒すと機体は左に移動します。スティックが中央にある場合、機体はその場でホバリングを行います。スティックを大きく倒すことで機体は大きく傾き(最大 35°)、高速で飛行します。</p>
		<p>ジンバルダイヤル：ダイヤルを右へ回すと、カメラは上を向きます。ダイヤルを左へ回すと、カメラは下を向きます。ダイヤル操作を行わない場合、カメラは現在の角度を保ちます。</p>

フライトモードスイッチ

このスイッチを切り替えてフライトモードを選択します。

Pモード、Fモード、Aモードから選択できます。

図	フライトモード
	Fモード
	Aモード
	Pモード



Pモード (Positioning: 場所) : PモードはGPSシグナルが強いときに最も有効です。3つの異なるPモードがあり、GPSシグナルの強さおよびビジョンポジショニングセンサーの状況に応じて自動的に切り替わります。

P-GPS: GPSおよびビジョンポジショニングの両方が有効の時。機体は位置の把握にGPSを使用します。

P-OPTI: ビジョンポジショニングが有効でGPSシグナルが無効の時。ホパリングの為にビジョンポジショニングのみ使用。

P-ATTI: GPSおよびビジョンポジショニングの両方が無効の時。位置の把握の為に気圧センサーのみを使用するので、高度だけは自動制御されます。

Aモード (Attitude: 姿勢) : GPSおよびビジョンポジショニングシステムが位置の把握の為に使用されません。機体は、高度を維持する為に気圧センサーのみを使用します。引き続きGPS信号が捕捉できており、ホームポイントが正しく記録されていれば、送信機の信号が途絶えた場合でも機体は自動的にホームに帰還することが出来ます。

Fモード (Function: 機能) : このモードではインテリジェントオリエンテーションコントロール (IOC) が使用できます。IOCに関する詳細は、付録の「インテリジェントオリエンテーションコントロール (IOC)」を参照してください。出荷時のフライトモードスイッチはPモードになっています。スイッチのロックを解除するには、DJI GOアプリからカメラのページに入り、マルチプルフライトモードを有効にしてください。

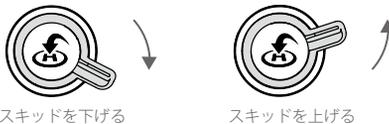
トランスフォーメーションスイッチ / RTH ボタン

トランスフォーメーションスイッチ / RTH ボタンには2つの機能があります。

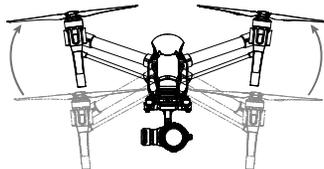
スイッチを上下へ切り替えることで、ランディングスキッドが持ち上がったりがったりします。ボタンを押すと、リターントゥーホーム (RTH) を開始します。

トランスフォーメーションスイッチ

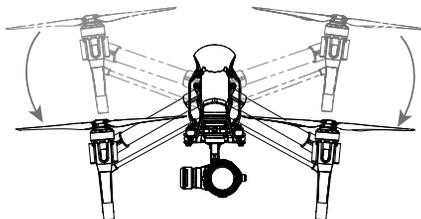
このスイッチは上下に切り替わります。スイッチの切り替えによりスキッドが次図のように動きます。



1. スキッドを上げる: ランディングスキッドを一番上まで持ち上げます。



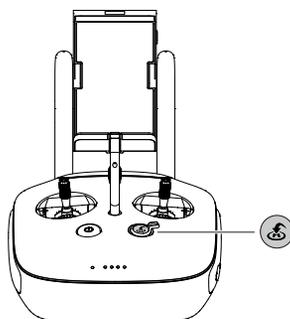
2. スキッドを下げる：着陸する為にランディングスキッドを一番下まで下げます。



⚠ 機体が地上にある時にランディングスキッドを上げないでください。
着陸前には、ランディングスキッドが下がっていることを確認してください。

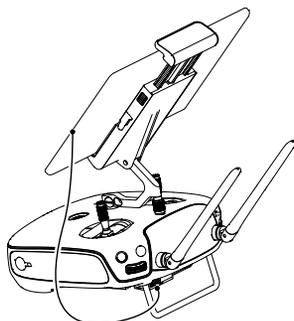
RTH ボタン

このボタンを長押しするとリターントゥーホーム（RTH）を開始します。機体が RTH に入る際、RTH ボタンの周りの LED は白く点滅します。その後、機体は最後に記録されたホームポイントへ帰還します。ボタンを再度押し続けることで RTH をキャンセルし、通常操作へ戻ることが出来ます。



モバイル端末の接続

モバイル端末ホルダーを使いやすい角度にしてください。ホルダーの横のボタンを押してクランプを解除し、モバイル端末をクランプに設置してください。クランプを調整して固定します。その後、USB ケーブルで送信機の後ろのコネクタとモバイル端末を接続してください。ケーブルの片方をモバイル端末に接続し、もう片方を送信機の裏側にある USB ポートに接続してください。



最適な伝送範囲

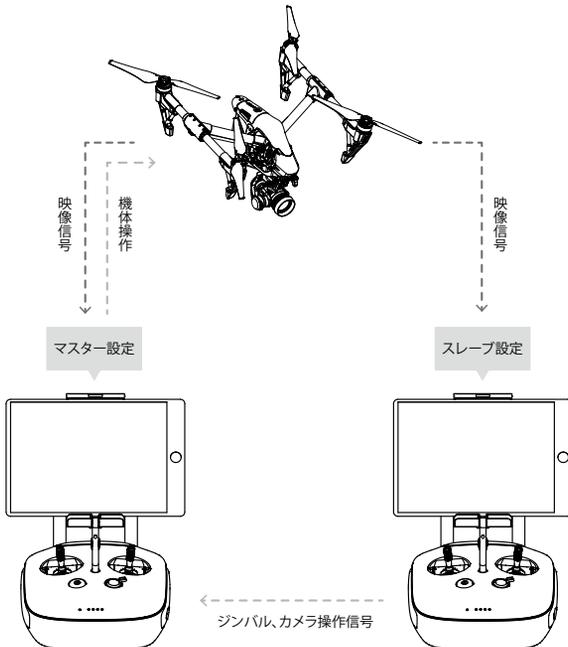
機体と送信機間の通信は、機体が出図のような範囲内にある状態が最良となります。



機体が最適な伝送範囲内を飛ぶようにしてください。伝送状態を最適にするため、機体と操縦者間の距離や位置を調整してください。

2パイロットモード (Dual Remote Controllers Mode)

2パイロットモードの時には、2つ以上の送信機を同じ機体に接続することができます。このモードでは、「マスター (Master)」送信機が機体の操縦を行い、「スレーブ」送信機がジンバルとカメラの操作を行います。複数の「スレーブ」送信機 (最大6台) を機体に接続する場合、最初に接続した「スレーブ」送信機のみがジンバルを操作できます。残りの「スレーブ」送信機は、機体からのライブ映像を確認し、カメラのパラメータを設定することはできますがジンバルの操作はできません。



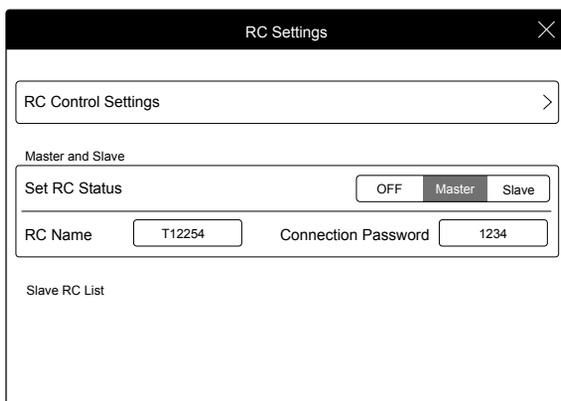
- ⚠ 1パイロットモードでは、送信機のジンバルダイヤルを使ってカメラのピッチ動作の操作は可能ですがカメラのパン動作の操作は行えません。

2パイロットモードへの設定

2パイロットモードは、初期設定では使用不可となっています。DJI GO アプリを使って「マスター (“Master)” 送信機でこの機能を有効にする必要があります。設定手順は以下の通りです。

「マスター」送信機：

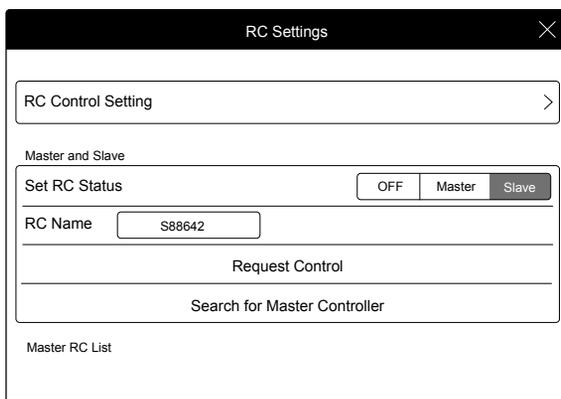
1. 送信機をご使用のモバイル端末に接続し、DJI GO アプリを起動します。
2. カメラページを開き、 をタップして送信機設定ウインドウに入ります。
3. 「RC ステータスを設定する (Set RC Status)」をタップして「マスター (“Master)” ・スレーブ (Slave)」モードに入ります。
4. 「RC ステータスを設定する (Set RC Status)」セクションの「マスター (“Master)”」を選択してお使いの送信機を「マスター (“Master)” 送信機として設定します。



5. 「スレーブ」送信機の設定で使用するパスワードを入力します。

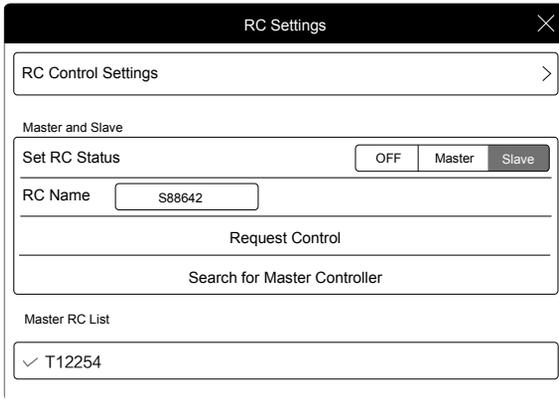
「スレーブ」送信機

1. 「マスター送信機の検索 (Search for Master Controller)」をタップして「マスター (“Master)” 送信機を検索します。



- ⚠ 送信機が「スレーブ」に設定されている場合は、「スレーブ」送信機は機体の操縦ができないため、送信機は機体とリンクすることができません。送信機を機体とリンクさせたい場合は、DJI GO アプリで送信機を「マスター（Master）」に設定し直してください。

2. 「送信機リクエスト（Request Control）」セクションに表示されている中から「マスター（Master）」送信機を探します。



3. 「マスター MC リスト（Master RC List）」から「マスター（Master）」送信機を選択し、接続するためのパスワードを入力して希望する「マスター（Master RC List）」送信機に接続します。

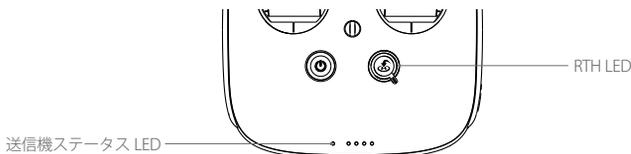
✓ T12254
Master RC List

Connection Password

1234

送信機ステータス LED

ステータス LED は、送信機と機体の接続状態を示しています。RTH LED は、機体の帰還（リターントゥホーム Return to Home）状況を示しています。表示内容の詳細は、下図をご参照ください。



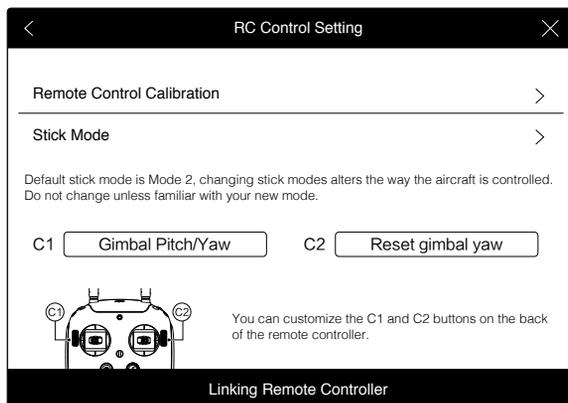
ステータス LED	アラーム	送信機の状態説明
 — 赤点灯	♪ チャイム	送信機が「マスター」に設定されているが機体とリンクしていない
 — 緑点灯	♪ チャイム	送信機が「マスター」に設定されており、機体とリンクしている
 — 紫点灯	D-D-	送信機が「スレープ」に設定されているが機体とリンクしていない
 — 青点灯	D-D-♪チャイム	送信機が「スレープ」に設定されており、機体とリンクしている
 …… ゆっくり赤に点滅	D-D-D……	送信機エラー
 /  …… 赤と緑、赤と黄が交互に点滅	なし	HD ダウンリンクが繋がっていない
RTH LED	サウンド	送信機の状態説明
 — 白点灯	♪チャイム	帰還（リターントゥホーム）開始
 …… 白点滅	D…	帰還（リターントゥホーム）コマンドを機体に送信中
 …… 白点滅	DD…	機体がホームポイントに帰還中

 送信機の電池残量が残りがずかになると、ステータスインジケータが赤く点滅しアラートが鳴ります

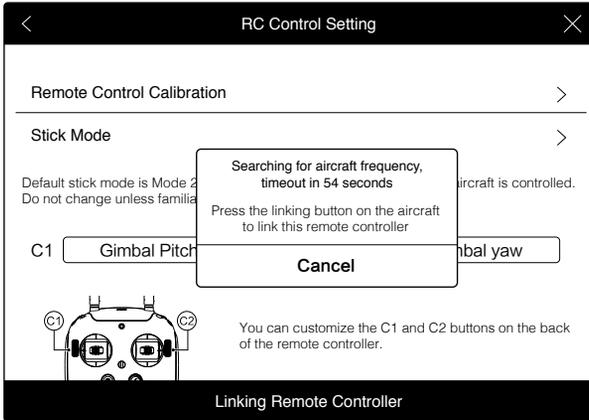
送信機のリンク

送信機は、出荷時にリンク作業が完了された状態になっています。新しい送信機を初めて使用する場合のみリンク作業が必要です。以下の手順に従ってリンク作業を実施してください。

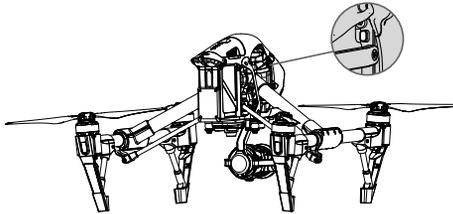
1. 送信機の電源を入れご使用のモバイル端末を接続し、DJI GO アプリを起動します。
2. インテリジェントフライトバッテリーの電源を入れます。
3. カメラ（Camera）ビューに入り、下図の「送信機のリンク（Linking Remote Controller）」ボタンをタップします。



4. 送信機のリンクの準備が整いました。送信機のステータスインジケーターが青に点滅しビープ音がします。



5. 下図に示す、機体前方にあるリンクボタンを押すとリンク作業を開始します。リンク作業が完了すると送信機のステータスインジケーターが緑に点灯します。



- ⚠
- 送信機が「スレープ」に設定されている場合、送信機は機体の操縦用として使用できないため、機体とはリンクできません。送信機を機体にリンクしたい場合には、DJI GO アプリで送信機を「マスター」に設定し直してください。
 - 新しい送信機が同じ機体にリンクされると、元の送信機と機体とのリンクは解除されます。

送信機のコンプライアンスバージョン

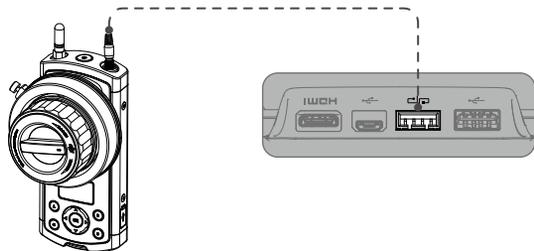
送信機は CE と FCC のどちらの要件にも対応しています。

DJI Focus の使用

DJI Focus は、Zenmuse X5 シリーズのジンバルとカメラに対応しています。Focus を Zenmuse X5 で使用する場合にはキャリブレーションの必要はありません。

接続

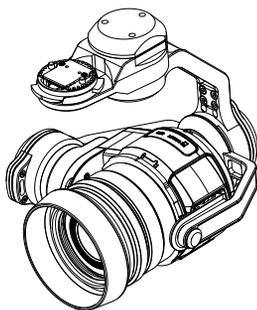
2つの機材間の通信が可能になるように、専用 CAN Bus ケーブルを使用して、Focus の送信機の通信ポートと Inspire 1 の送信機の CAN Bus ポートを接続してください



- Zenmuse X5 カメラが AF モードになっていることを確認してください。
- 詳細は、「DJI FOCUS ユーザーマニュアル」をご参照ください。

カメラおよびジンバル

カメラの技術仕様およびジンバルの動作モードについての説明



カメラおよびジンバル

カメラについて

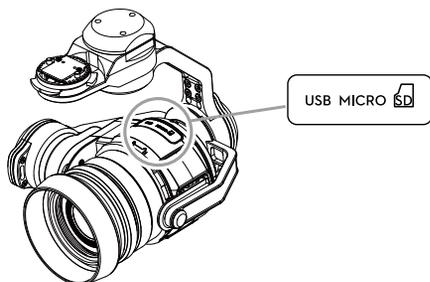
Zenmuse X5 は、マイクロフォーサーズの交換式レンズを搭載した高性能で堅牢なジンバル・カメラシステムを上級カメラマンに提供します。この 4/3 型 CMOS センサーは、4K 動画と 16 メガピクセルの静止画を記録することができます。

Zenmuse X5 レンズキットには視野角 72°、手動で f/1.7 ~ f/16 まで調整できる絞り範囲を実現する DJI MFT 15mm f/1.7 ASPH レンズが付属しています。カメラは、JPEG や DNG RAW での連続撮影、AEB 撮影、タイムラプス撮影が可能で、MP4 や MOV の形式で動画も出力できます。DJI GO アプリを使って、カメラからのライブ HD 動画をご使用のモバイル端末上で確認することができます。

3 軸ジンバルにより、高速で操作している時でも、鮮やかな映像の撮影が可能な、非常に安定したプラットフォームが実現しています。ジンバルは、-90° ~ +30° のピッチ角でカメラをチルトし、完全に 360° パンすることができます。

カメラの Micro-SD カードスロット

Inspire 1 Pro の電源を入れる前に、写真や動画を保存するために下図のスロットに Micro-SD カードを挿入してください。Inspire 1 Pro には 16GB の Micro-SD カードが付属していますが、最大 64 GB の Micro-SD カードまで対応しています。高画質の動画データを高速で読み書きすることができるので、UHS-1 タイプの Micro-SD カードの使用を推奨します。



⊗ Inspire 1 Pro の電源が入っている時は、Micro-SD カードを抜かないでください。

カメラデータポート

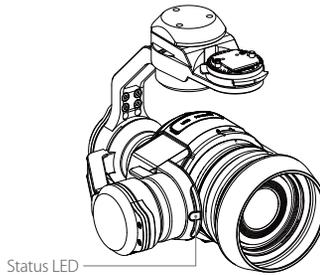
カメラから写真や動画をパソコンへダウンロードするには、Inspire 1 Pro の電源を入れ、USB ケーブルをカメラデータポートに接続します。



⚠ 先に機体の電源を入れてからファイルをダウンロードしてください。

ステータス LED

ステータス LED は、カメラの動作状態を表示します。



ステータス LED	カメラの状態
緑点灯	電源オン：システム待機状態
緑に早く点滅 (0.1 秒点灯、0.2 秒消灯)	システムウォーミングアップ中
緑に 1 回点滅 (0.2 秒消灯)	シングル写真撮影中
緑に 3 回点滅 (0.2 秒点灯、0.2 秒消灯)	連続写真撮影中 (3 ~ 5 枚/秒)
赤にゆっくり点滅 (0.8 秒点灯、0.8 秒消灯)	録画中
緑と赤に交互に点滅 (0.8 秒緑、0.8 秒赤)	ファームウェアアップデート中
赤に早く点滅 (0.2 秒点灯、0.3 秒消灯)	SD card エラー
赤点灯	ファームウェアアップデートに失敗
赤に 2 回点滅 (0.1 秒点灯、0.1 秒消灯)	カメラのオーバーヒート

カメラ操作

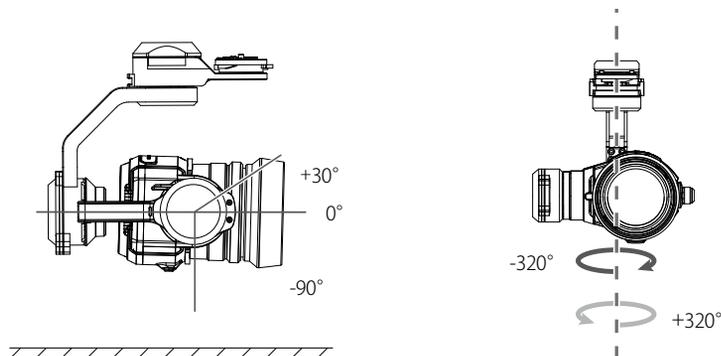
送信機のシャッター／録画ボタンを使って DJI GO アプリにより写真や動画を撮影することができます。詳しくは P.27 の「カメラ操作」のページをご参照ください。

ジンバル

ジンバルの紹介

3 軸ジンバルは、搭載したカメラを安定させるプラットフォームとなっているため、安定した画像や動画を撮影することができます。このジンバルは、カメラを最大 120° チルトすることが可能で、360° 回転することもできます。

パンは機体正面より左右に 330° づつ動きます。360° の回転を連続で行うことはできません。

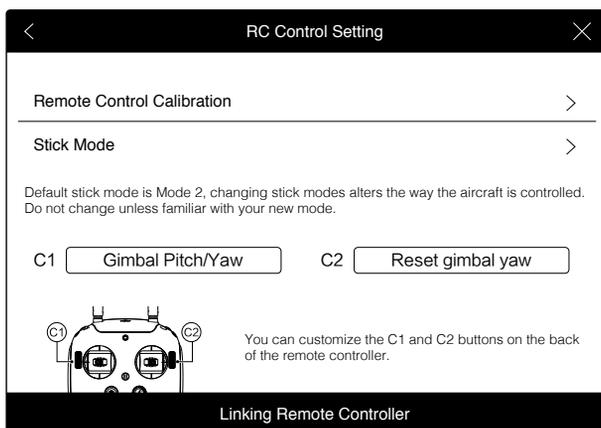


初期設定では、送信機のジンバルダイヤルを使用してカメラのピッチを操作することができますが、パン動作の操作は行えません。カメラのパンとチルトの両方を操作したい場合は、「マスター・スレーブ ("Master-and-Slave) 」モードを有効にし、送信機を「スレーブ」状態にしてください。

パンの操作

ジンバルダイヤルを使用してパンの操作を行う場合は、下記の手順を実施してください。

1. 機体と送信機の電源を入れ、DJI GO アプリを起動し、「カメラ (Camera) 」ページに入ります。
2. 「RC 操作設定 (RC Control Settings) 」アイコンをタップし、ジンバルのチルト/パンの切り替えボタンとして C1 か C2 のカスタマイズ設定ボタンを選択します。
3. 「ジンバルピッチ/ヨー (Gimbal Pitch/Yaw) 」をドロップダウンリストから選択します。



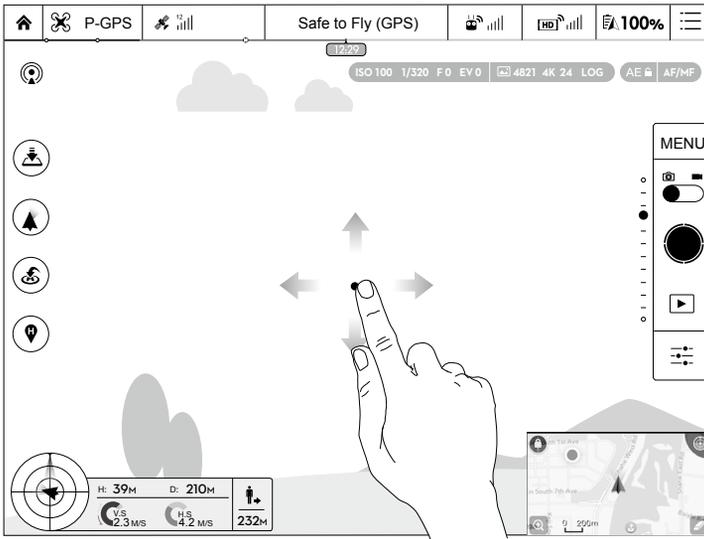
割り当てを行った C1 か C2 のボタンを押すと、ピッチモードとヨーモードは切り替わります。ジンバルダイヤルを使って、ヨーモード時にジンバルをパンすることもできます。もう一度 C1 か C2 のボタンを押すとヨーモードが終了します。

C1 ボタンを押しながら、ジンバルダイヤルを回して X5 カメラの焦点を手動で合わせることができます。C2 ボタンを押しながら、カメラ設定ダイヤルを回してジンバルのロール軸の微調整を行うことができます。

DJI GO アプリを使用したジンバルの操作

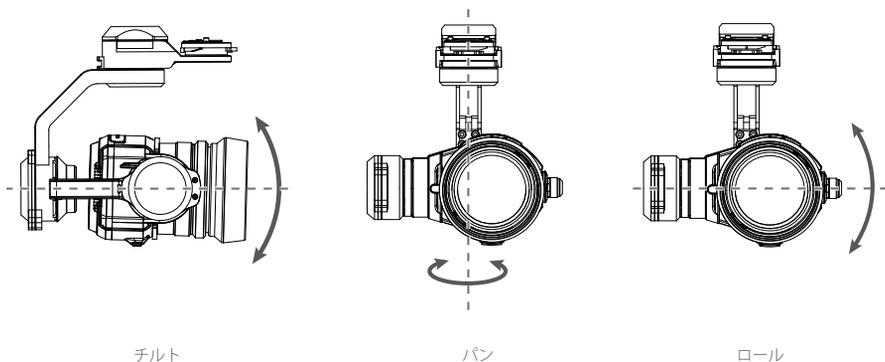
下記手順により、DJI GO アプリを使ってジンバルの操作を行うことができます。

1. DJI GO アプリを立ち上げ、「カメラ (Camera)」ページに入ります。
2. 青の丸いアイコンが表示されるまで、画面を長押しします。
3. 下図に示すように「カメラ (Camera)」ページで指をスライドさせてジンバルの方向を操作することができます。



ジンバル動作モード

ジンバル動作モードは3つあります。動作モードの切り替えは、DJI GO アプリの、「カメラ (Camera)」ページから行います。切り替えのためにはご使用のモバイル端末が送信機に接続されている必要があります。動作モードの詳細は以下の表をご参照ください。



	Follow Mode (フォローモード)	常にジンバルの向きと機首方向との間の角度を保ちます。 1パイロット時はチルトの操作のみ可能です。パンの操作を行うには2パイロットが必要です。
	FPV Mode (FPV モード)	一人称視点での飛行モードです。ジンバルは機体の動きを固定します。
	Free Mode (フリーモード)	ジンバルの動作は機体の方向には影響されません。1パイロット時はチルトの操作のみ可能です。パンの操作を行うには2パイロットが必要です。
	Re-alignment (方向の再調整)	ジンバルを現在の向きからパンさせて、ジンバルの方向を機体の向きへと合わせます。この時、チルト角は変わりません。



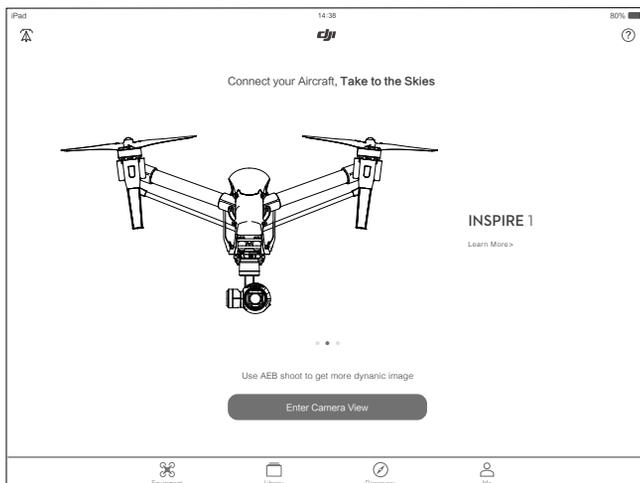
- ジンバルモーターエラーは次のような場合に発生します。
 - 機体が平らでない地面に置かれている場合。
 - 衝突など、外部から強い力が加わっている場合。平らな開けた地面から離陸させ、離陸後はジンバルを保護して下さい。
- 濃霧や雲の中を飛行させるとジンバルが濡れ、一時的に使用できなくなることがありますジンバルが乾くと再度使用できるようになります。

DJI GO アプリ

DJI GO アプリの4つの主要画面（GUI）
の説明

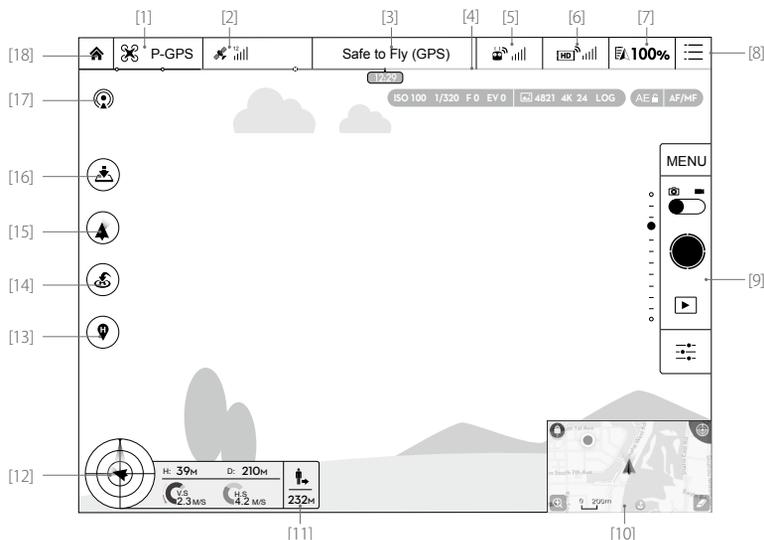
DJI GO アプリ

DJI GO アプリは Inspire 1Pro 用に作られたアプリです。このアプリを使用してジンバルやカメラ、その他の機能の操作を行うことができます。また、マップ、ストア、ユーザーセンターといった機能があり、機体の設定や撮影データを友人と共有することもできます。最高の飛行体験を得るためにも、タブレットをご使用になることを推奨します。



カメラ

カメラページでは Inspire 1 Pro のカメラからのライブ HD 映像を確認できます。その他にもさまざまな設定をこのページから行うことができます。



[1] フライトモード

: このアイコンの横に現在のフライトモードが表示されます。
 タップすると MC(メインコントローラー)の設定を行うことができます。飛行制限の変更やゲイン値の設定を行うことができます。

[2] GPS 信号強度

: 現在の GPS シグナルの強度を表します。十分な GPS 信号強度の時に緑になります。

[3] システムステータス

 (Safe to Fly (GPS)): このアイコンは、現在の機体の状態や GPS 信号強度を表示します。

[4] バッテリー残量インジケータ

: 現在のバッテリー残量を表示します。残量により、インジケータのカラーが異なります。

[5] 送信機信号

: 送信機の信号強度を表します。

[6] HD ビデオリンク信号強度

: 機体と送信機間の HD ビデオリンク信号の強度を表します。

[7] バッテリー残量

 **100%**: 機体側の現在のバッテリーの残量を表示します。

タップしてバッテリー情報のメニューを開き、各種警告の設定や、警告の履歴などの確認ができます。

[8] 一般設定

: このアイコンをタップして一般設定 (General Settings) ページを開きます。このページからフライトパラメーターの設定、カメラのリセット、クイックビュー機能のオンオフ、ジンバルのロール調整、飛行経路表示の切り替えを行います。

[9] カメラ操作バー

メニュー: 写真スタイル

メニュー (MENU) をタップして ->  -> スタイル (Style) に進み以下のスタイルから選択する。

1. スタンダード

ほとんどのシーンに適した汎用性の高いスタイルです。

2. 風景

深い被写界深度を使って、カメラはシーンの多くに焦点を合わせます。

3. ソフト

自然な色や柔らかい色のシーンに適しています。

4. カスタム設定

シャープネス: -3 ~ +3

コントラスト: -3 to +3

彩度: -3 to +3

メニュー：ホワイトバランス

メニュー (MENU) をタップして ->  -> ホワイトバランス (White Balance) に進み以下のモードから選択する。

1. 自動

カメラは、自動でホワイトバランスを調整します。

2. 太陽光／曇り／白熱電球／ネオン電球

写真スタイルを使って自然な色が得られない場合、いずれかのモードを選択してください。

3. カスタム設定 ((2000K～10000K)

2000K～10000Kの間の値に設定して特定の光源の補正を行ってください。

メニュー：設定リスト

写真	
撮影モード	シングル撮影、バーストモード、AEB (オートブラケット 3/5 枚)、タイムラプス
画像形式	JPEG, DNG, JPEG+DNG
画像サイズ	4:3, 16:9
ホワイトバランス	自動、太陽光、曇り、白熱電球、ネオン電球、カスタム設定 (2000K～10000K)
スタイル	スタンダードし、風景、ソフト、カスタム設定 (シャープネス/コントラスト/彩度)
カラー	LOG、なし、ビビッド (Vivid)、白黒、アート (Art)、映画 (Film)、ビーチ (Beach)、ドリーム (Dream)、クラシック (Classic)、ノスタルジア (Nostalgia)
動画	
動画サイズ	UHD:4K (4096 × 2160) 24/25p, 4K (3840 × 2160) 24/25/30p, 2.7K (2704 × 1520) 24/25/30p; FHD:1920 × 1080 24/25/30/48/50/60p
動画ファイル形式	MOV, MP4
NTSC/PAL	PAL, NTSC
ホワイトバランス	自動、太陽光、曇り、白熱電球、ネオン電球、カスタム設定 (2000K～10000K)
スタイル	スタンダード、風景、ソフト、カスタム設定 (シャープネス/コントラスト/彩度)
カラー	LOG、なし、ビビッド (Vivid)、白黒、アート (Art)、映画 (Film)、ビーチ (Beach)、ドリーム (Dream)、クラシック (Classic)、ノスタルジア (Nostalgia)
一般	
クイックプレビュー	オフ、1s、2s、3s、4s、5s、6s、7s、8s、9s、10s
アンチフリッカー	自動、60Hz、50Hz
グリッドの表示	オフ、グリッドライン、グリッド+斜線、中央
ファイルインデックス モードポイントする	リセット、続行
その他	ヒストグラム、ビデオキャプション、レンズプロファイルの表示、カメラ設定のリセット、SD カードの初期化

📷: 写真撮影

写真／ビデオ切り替えスイッチを 📷 の位置にスライドさせます。● ボタンまたは送信機のシャッターボタンをタップしてシングル撮影を行います。「メニュー (MENU)」をタップして -> 📷 -> 写真 (Photo)」と進みいづれかの撮影モードを選択します。

1. バーストモード

3枚、5枚または7枚の写真を連続撮影します。

2. AEB (オートエクスポージャーブラケット)

露出補正±0.7EV ステップ内で3枚または5枚のブラケット撮影を行います。

3. タイムラプス

5秒、7秒、10秒、20秒または30秒間隔で写真を撮影します。

📹: ビデオの録画

写真／録画切り替えスイッチを 📹 の位置にスライドさせます。アイコンまたは送信機の録画ボタンをタップしてビデオ録画を開始または停止します。

☰: 露出モード

☰ をタップして以下の露出モードから選択してください

1. オート

シャッタースピードと絞りが自動的に設定され適正な露出が得られます。

2. S (シャッター優先)

お好みのシャッタースピードを設定すると、カメラが絞りを自動選択します。このモードは、アクションをフリーズさせたり、被写体ブレを演出したり、光量の少ない場所での撮影に最適です。

3. A (絞り優先)

お好みの絞りを設定すると、カメラがシャッタースピードを自動選択します。このモードを使えば、写界深度が深くなり、背景をぼかすことができます。

4. M (マニュアル露出)

一般的には、光量が少ない状況ではISO感度を上げ、周囲が非常に明るい場合はISO感度を下げます。

▶: 再生

DJI GO アプリで ▶ をタップする、または送信機の再生ボタンを押すと撮影した写真や動画を確認することができます。再度同じボタンを押すと撮影している画像にもどります。

[10] マップ

現在の飛行経路を表示します。タップするとカメラ画面 (GUI) とマップ画面 (GUI) が切り替わります。



[11] 機体との距離

: ホームポイントから機体までの距離。機体が地面に近い場合、このアイコンは  に変わりビジョンポジショニングセンサーの地表からの高度を表示します。

[12] フライトテレメトリー

機体の姿勢が飛行姿勢アイコンで表示されます。

- (1) 赤い矢印は機体の向いている方向を表します。
- (2) 明るい青色と暗い青色のエリアで機体のピッチ角を表します。
- (3) 明るい青色と暗い青色の境界線の傾きで機体のロール角を表します。

[13] ホームポイント設定

: タップして現在のホームポイントをリセットします。ホームポイントとして、機体を離陸させた場所、送信機の現在位置、または機体の現在位置を選択をすることが出来ます。

[14] 帰還 (リターントゥーホーム) (RTH)

: RTH を開始します。タップして機体を最新のホームポイントへと帰還させます

[15] ジンバル動作モード

詳細は、P42 の「ジンバル動作モード」をご参照ください。

[16] 自動離陸 / 自動着陸

 / : タップすると自動離陸 / 自動着陸が開始されます。

[17] ライブストリーム

: ライブストリームアイコンは、現在のビデオ画像が YouTube でライブ放送されているときに表示されます。モバイル端末でモバイルデータ通信サービスが利用できることを確認してください。

[18] 戻る

: タップしてメイン画面 (GUI) へ戻ります。

ライブラリ

あなたの作品をすべて 1 か所で閲覧、編集および共有することができます。ライブラリは、撮影した数分後に、動画や写真をオンラインで共有する前に編集できる簡単ですが強力な多彩なツールを備えています。

エクスプロー

エクスプローのページでは、最新のイベントやおすすめ製品、話題の SkyPixel へのアップロード作品等をご覧いただけます。

自分 (Me)

すでに DJI アカウントをお持ちの場合、フォーラムのディスカッションに参加し、DJI ストアでクレジットを獲得し、自分の作品をコミュニティと共有することができます



フライト

安全飛行と飛行制限事項についての説明

フライト

飛行前の準備が完了したら、フライトシミュレータを使用して安全な飛行方法を習得することをお勧めします。また、すべての飛行は、必ず適切な場所で行ってください。

飛行環境条件

1. 風速 10m/s を超えているときや雪、雨、スモッグのような、厳しい気象条件下で機体を飛ばさないでください。
2. 必ず開けた場所で飛ばしてください。高層ビル群や鉄鋼製のもの、搭載しているコンパスや GPS 信号の精度に影響を与える可能性があります。
3. 障害物や人が多い場所、高圧電線の付近、木が多い所、水辺も同様に飛行は控えてください。
4. 電磁妨害を最小限に抑えるために、携帯電話基地局や電波塔など高レベルで電磁気を発する物の近くで飛行させないでください。
5. 機体やバッテリーの性能は、空気密度や温度などの環境要因で変化します。海拔 4500 メートル (14700 フィート) 以上を飛行する際はバッテリーや機体性能が低下するのでご注意ください。
6. Inspire 1 Pro は極地内では P モードで飛行できません。

飛行制限と飛行制限区域

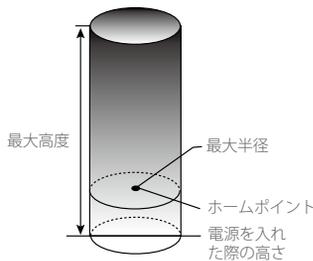
高度と距離に飛行制限を設定することができます。これらの飛行制限の詳細は次の通りです。すべての無人航空機 (UAV) 使用者は、ICAO (国際民間航空機関)、FAA および自国の領空の規制に従わなければなりません。

機体を安全かつ法律に則り使用していただけるよう、飛行制限の機能が初期設定で有効になっています。飛行制限機能には、高度制限、距離制限と「飛行禁止区域」が含まれます。

P モードでは、高度制限、距離制限、「飛行禁止区域」の機能が有効となります。A モードでは高度制限のみが有効となり、120M 以上上空へ行くことはできません。

最大高度と半径の制限

最大高度と半径の制限は飛行可能高度と距離を制限します。これらの設定を DJIGO アプリで変更することができます。設定が完了すると、Inspire 1Pro は、設定で決められた制限区域内 (下図のような円柱の範囲内) を飛行します。制限についての詳細は以下の表をご参照ください。



GPS 信号が強い時  ……緑の点滅

	飛行制限	DJI GO アプリの通知	機体ステータスインジケーター
最大高度	飛行高度は設定高度以下となります	警告：高度制限に達しました	なし
最大半径	飛行距離は最大半径以内となります	警告：距離に達しました	最大半径に近づくと赤の早い点滅

GPS 信号が弱い時  ……黄色の点滅

	飛行制限	DJI GO アプリの通知	機体ステータスインジケーター
最大高度	飛行高度が 120m 以下に制限されています	警告：高度制限に達しました	なし
最大半径	制限なし		



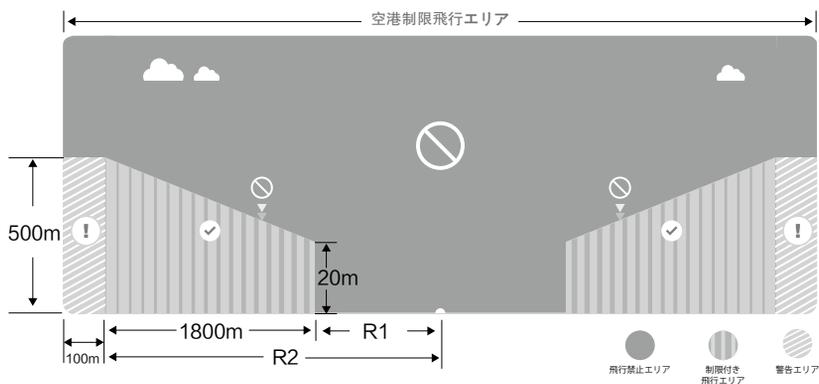
- 制限エリアの外へ出てしまっても、Inspire 1 Pro を制御することができますが、更に遠くへ飛行させることはできません。
- Inspire 1 Pro が、「飛行準備完了 (Ready to Fly) (GPS 信号がない状態)」モードで最大半径を超えてしまった場合でも、自動で制限区域内へ戻ります。

飛行禁止区域

すべての飛行禁止区域は、DJI の公式サイト <http://flysafe.dji.com/no-fly> に記載されています。飛行禁止区域は、空港および制限区域に分類されています。空港には世界中の主要空港と有人機が低空飛行する飛行場が含まれています。制限区域には国境や重要な場所が含まれます。飛行禁止区域の詳細について以下で説明します。

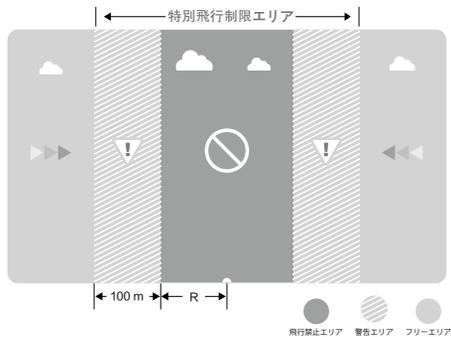
空港

- 空港飛行禁止区域は、離陸制限区域と高度制限区域を含みます。それぞれの区域は空港を中心に円状に広がっています。
- R1 の値は空港の規模によって異なります。R1 は空港周囲の区域でその内側は離陸および飛行は禁止されています。
- R 1 マイルから (R1+1) マイルにかけて、15° 傾斜で飛行高度が制限されており、空港側が高度 20 メートル (65 フィート)、(R1+1) マイルの地点では高度 500 メートル (1640 フィート) に制限されています。
- 機体が飛行禁止区域の 100 メートル (320 フィート) の範囲に入った場合、DJI GO アプリ上に警告が表示されます。



制限区域

- (1) 飛行制限エリアには飛行高度制限はありません。
- (2) 制限区域の周囲 R は離陸制限区域です。機体はこの区域内では離陸できません。R 値は制限区域により異なります。
- (3) 制限区域の周囲に「警告区域」が設定されています。機体がこの区域の 1 キロメートル (0.6 マイル) 内に入った場合、DJI GO アプリ上に警告が表示されます。



GPS のシグナルが強い  …… 緑の点滅			
区域	制限	DJI GO アプリの通知	機体ステータスインジケータ
飛行禁止区域 	モーターは始動しません。	警告：飛行禁止区域にいます。離陸は禁止されています。	 …… 赤の点滅
	機体が A モードで制限区域へ侵入したが P モードが起動した場合、機体は自動的に下降し、着陸後モーターは停止します。	警告：飛行禁止区域にいます。自動着陸が始まりました。(1.5 マイル半径内にいる場合)	
制限高度飛行区域 	機体が A モードで制限区域へ侵入したが P モードが起動した場合、機体は安全な高度まで降下しその高度の 15 フィート下でホバリングします。	警告：飛行制限区域にいます。安全な高度まで下降中です (1.5 マイル～5 マイル半径にいる場合)。警告：飛行制限区域にいます。最大飛行高度は 10.5 メートル～120 メートルの間に制限されています。注意して飛行させてください。	
警告区域 	飛行制限は適用されませんが、警告メッセージが表示されません。	警告：制限区域に接近していません。注意して飛行させてください。	
フリーエリア 	制限なし	なし	

 セミオートマティック降下：降下と着陸プロセス中も、上昇以外の操作は行うことができます。モーターは着陸後に自動的に停止します。

- 
- 安全区域を飛行する時、機体のステータスインジケータが早く赤に点滅し 3 秒間続きます。その後 5 秒間は現在の飛行状態を示し、再び赤の点滅に切り替わります。
 - 安全上の理由から、空港、高速道路、鉄道の駅、線路、都市や他の特別な地域の近くで飛行させないでください。機体が常に目視できる範囲内で飛ばしてください。

飛行前チェックリスト

1. 送信機、機体のバッテリーおよびモバイル端末が完全に充電されているか。
2. プロペラは正しい箇所へしっかり装着されているか。
3. Micro-SD カードが挿入されているか。
4. ジンバルは問題なく機能しているか。
5. モーターは起動して通常通り動くか。
6. DJI GO アプリと機体の接続は完了しているか。

コンパスキャリブレーション

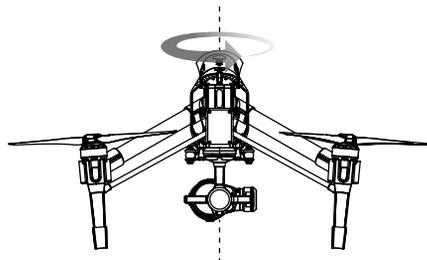
重要：飛行場所を変更した際は必ずコンパスキャリブレーションを実施してください。コンパスは非常に干渉を受けやすく、コンパスがずれていると不安定な飛行や故障につながる可能性があります。最適な性能を得るために、定期的なキャリブレーションが必要です。

- マグネタイト、駐車場、地下の補強鉄筋など、強い磁気干渉を受ける可能性がある場所では、コンパスキャリブレーションを行わないでください。
- キーや携帯電話などの強磁性体を身につけてコンパスキャリブレーションを行わないでください。
- 巨大な金属製の物体の近くでコンパスキャリブレーションを行わないでください。

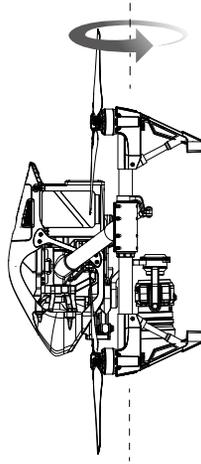
キャリブレーション手順

開けた場所を選び以下の手順で行ってください。

1. コンパスのキャリブレーションが行われていることを確認してください。飛行前準備としてキャリブレーションを行っていない、または前回と違う場所で飛行させる場合、アプリの機体ステータスインジケータバーをタップし、「キャリブレーションを行う (Calibrate)」を選択し、画面の指示に従ってください。
2. 機体を水平に保ち水平方向に 360° 回転させます。成功すると機体ステータスインジケータが緑に点灯します。



3. 機首を下向きにして垂直に機体を持ち、その状態で機体の中心軸に沿って 360 度回転させます。機体ステータスインジケーターが赤に点灯した場合、再度コンパスのキャリブレーションを行ってください。



⚠ キャリブレーション後に機体ステータスインジケーターが赤と黄色に交互に点滅する場合、場所を変えて再度コンパスキャリブレーションを行ってください。

☀ 各フライトの前にコンパスキャリブレーションを行ってください。DJI GO アプリを立ち上げ、画面の指示に従ってコンパスのキャリブレーションを行ってください。

再キャリブレーションが必要な時：

1. コンパスデータが異常で、機体ステータスインジケーターが赤と黄色に点滅している時。
2. 新しい場所や前回と違う場所で飛行させる時。
3. Inspire 1 Pro に機械的な変更があった時（例：コンパスの搭載位置を変更した時）
4. 飛行中に激しく流れるなど、Inspire 1 Pro が真っ直ぐに飛ばない時

自動離陸／自動着陸

自動離陸

機体のインジケーターが緑に点滅している時に、自動離陸機能を使用して機体を自動的に離陸させることができます。以下の手順に従って行ってください。

1. DJI GO アプリを起動し、カメラページ (Camera Page) に入ります。
2. 機体が「Pモード」にあることを確認します。
3. 飛行前のチェックリストを確認します。
4. 📍をタップし飛行状況を確認します。スライドして確認すると離陸します。
5. 機体は離陸し地上 1.2 m の所でホバリングします。

自動着陸

機体のインジケーターが緑に点滅している時に、自動着陸機能を使用して機体を自動的に着陸させることができます。以下の手順に従って行ってください。

1. 機体がPモードにあることを確認します。
2. 着陸場所の安全を確認した上で  をタップして着陸を行います。
3. 機体がランディングスギアを下げ自動的に着陸を開始します。

 ランディングスギアは、機体が 1.2 メートルの高度に達すると自動的に上がり、0.8 メートルまで下降すると自動的に下がります。この機能のオン/オフの切替えは GO アプリで行うことができます。

モーターの始動／停止

モーターの始動

スティックを単に上に倒すのではなく、以下のコンビネーションスティックコマンド (CSC) を使ってモーターを始動します。必ず CSC 操作は 1 回で行ってください。



モーターの停止

モーターの停止方法には 2 種類あります。

方法 1 : Inspire 1Pro の着陸後、スロットルスティックを ① のように下に倒し、CSC 操作を行います ②。モーターは即時に停止します。モーターが停止したら、両方のスティックを離します。

方法 2 : Inspire 1Pro の着陸後、スロットルスティックを倒し続けると、3 秒後にモーターは停止します。



 機体の飛行中は、CSC 操作を行わないでください。モーターが停止します。

飛行テスト

離陸／着陸手順

1. 機体を開けた場所の平らな地面に、バッテリーインジケーターが操縦者側に向くように置きます。
2. 送信機とモバイル端末に電源を入れてからインテリジェントフライトバッテリーの電源を入れます。
3. DJI GO アプリを立ち上げ、カメラページに入ります。
4. 機体のインジケーターが緑に点滅するまで待ちます。これは、ホームポイントが記録され、安全に飛行できる準備が完了した合図となります。もしこの時黄色色に点滅する場合は、ホームポイントは記録されていないので、離陸させてはいけません。

5. スロットルスティックをゆっくりと上げていか、自動離陸機能を使用して離陸させます。
6. DJI GO アプリを使って写真とビデオを撮影します。
7. 着陸の際は、水平な地面上でホバリングさせ、ゆっくりとスロットルスティックを下げます。
8. 着陸後、CSC 操作あるいは 3 秒以上スロットルスティックを倒したままにし、モーターを停止させます。
9. 最初にインテリジェントフライトバッテリーの電源を切り、次に送信機の電源を切ります。



- 飛行中にフェイルセーフモードに入った際、機体ステータスインジケーターが素早い黄色点滅をします。
 - 飛行中にローバッテリー警告が表示された場合、機体ステータスインジケーターが赤くゆっくりあるいは早く点滅します。
 - 飛行に関する情報については、ビデオチュートリアルをご視聴ください。
-

動画撮影の推奨事項・ヒント

1. フライト毎に飛行チェックリストを確認しましょう。
2. DJI GO アプリで希望のジンバルモードを選択しましょう。
3. 撮影は P モードでの飛行中に行うようにしましょう。
4. 晴天で無風のような天候に恵まれた日に撮影をしましょう。
5. 写真のフォーマットや露出補正など、自分に合ったカメラ設定に変えましょう。
6. 飛行試験を行い、飛行経路やアングルなどを事前に決めましょう。
7. スティック操作はゆっくりと行い、機体を安定させ滑らかな飛行を心がけましょう。

FAQ

トラブルシューティング (FAQ)

1. GoPro カメラを搭載できますか？

現在は GoPro には対応しておりません。DJI カメラ専用ジンバルとなっているので GoPro を搭載することはできません。

2. グラウンドステーションは使用できますか？

現在は使用できません。今後ファームウェアのアップデートで使用可能になる予定です。

3. カメラの露出設定はオートですか？

基本的にはオートですが、特定の設定を行いたい場合はマニュアルに変更することが可能です。

4. アプリ上で写真のサイズを確認することは出来ますか？

可能です。DJI GO アプリのプレビューにて写真、映像のサイズ確認が可能です。

5. Inspire 1 Pro はカメラを除いてどれくらいの重さを搭載できますか？

DJI では、専用カメラとジンバル以外を搭載して飛行させることを推奨致しておりません。

6. Inspire 1 Pro で使用できる液晶モニターを販売していますか？

DJI では Inspire 1 Pro 用のモニターの販売は行っておりませんが、互換性のあるモニターやモバイル端末をお持ちでしたら接続することが出来ます。

7. バッテリーの充電にはどれくらいの時間がかかりますか？また充電器は付属していますか？

はい、専用充電器が付属しています。標準搭載の 4500 m Ah バッテリーのフル充電には約 85 分かかります。

8. 2つの送信機は同じものですか？ またカメラと機体を別々に操作する時にはアプリかどこかで設定が必要ですか？

2つの送信機は機械的に同じ物です。DJI GO アプリから、「マスター」と「スレーブ」に設定することで2パイロットモードで使用できます。

9. トレーナーポートは付属していますか？ またそれを使いシミュレーター等は使用できますか？

Inspire 1 Pro 用の送信機にトレーナーポートはありません。

10. Phantom2 シリーズの送信機に、モバイル端末ホルダーは使えますか？

使えません。Inspire 1 Pro の送信機専用の仕様となります。

11. Inspire 1 Pro に Micro-SD カードは付属していますか？

16GB の Micro-SD カードが付属しています。64GB までの Micro-SD カードに対応しています。

12. 送信機は後から増やすことは出来ますか？

できます。

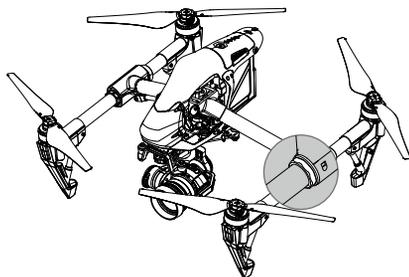
13. Inspire 1 Pro はどれくらいの大きさですか？

プロペラ未装着で 44x30x45cm (全長×高さ×全幅) です。

14. Inspire 1 Pro はどのようなフライトコントローラーを使用していますか？

新しい専用フライトコントローラーが搭載されています。

15. どのプロペラとモーターが付属していますか？
3510H モーターと 1345T プロペラが付属しています。
16. 機体フレームのアームジョイントが緩んでいるように見えます。これは正常ですか？
下図のジョイントの間隔が正常です。機体の性能に影響はありませんので、ネジの位置を調整しないでください。



17. セルフチェックを完了できません。
電源を入れる前に、機体を平らな場所に置いてください。セルフチェック中は機体を動かさないでください。

付録

付録

仕様

機体	
モデル	T600
重量	2870g (バッテリーとプロペラ込み、Zenmuse X5 含まず) 3400g (バッテリー、プロペラ、Zenmuse X5 込み)
最大離陸重量	3500 g
ホバリング精度 (P モード)	垂直：± 0.5 m 水平：± 2.5 m
最大回転速度	ピッチ：300° /s ヨー：150° /s
最大傾斜角度	35°
最大上昇速度	5 m/s
最大下降速度	4 m/s
最大飛行速度	18 m/s (ATTI モード、無風時)
航行可能限界高度	海拔 4500 m (ソフトウェア高度制限：離陸地点上 120m)
最大風速抵抗	10 m/s
最大飛行時間	約 15 分
モーター	DJI 3510H
プロペラ	DJI 1345T
室内ホバリング	有効
動作環境温度	-10°C～40°C (14°F～104°F)
対角距離	559 mm
ジンバルとカメラ	
ジンバル	
名称	Zenmuse X5
寸法	120 (W) x 135 (H) x 140 (D) mm
重量	530g (レンズ、バランスリング、レンズフード、Micro SD カード込み)
動作環境温度	0°C～40°C (32°F～104°F)
カメラ	
レンズ	交換式レンズ オートフォーカス対応マイクロフォーサーズ (M43) マウント
対応レンズ	DJI MFT 15mm f/1.7 ASPH Panasonic Lumix G Leica DG Summilux 15mm f/1.7 ASPH Olympus M.Zuiko Digital ED 12mm f/2.0 Olympus M.Zuiko 17mm f/1.8 (バランスリングは、間もなく DJI ストアでご購入いただけます。)

センサー	4/3 型 CMOS センサー
有効画素数	16M ピクセル
最大解像度	4608 x 3456
ISO レンジ	100 ~ 25600
電子シャッタースピード	8s ~ 1/8000s
視野角	DJI MFT 15mm f/1.7 ASPH 72°
静止画モード	シングル撮影 連続撮影：3/5/7 枚 オートエクスポージャーブラケティング (AEB)：オートブラケット 3/5 枚 (0.7EV ステップ) タイムラプス (3/5/7/10/20/30/60 秒)
ビデオ解像度	UHD:4K (4096 × 2160) 24/25p, 4K (3840 × 2160) 24/25/30p, 2.7K (2704 × 1520) 24/25/30p; FHD:1920 × 1080 24/25/30/48/50/60p
最大ビットレート	60 Mbps
対応ファイルシステム	FAT32 (≤ 32 GB), exFAT (> 32 GB)
静止画ファイル形式	JPEG, DNG (RAW)
動画ファイル形式	MP4/MOV (MPEG-4 AVC/H.264)
対応 SD カードタイプ	クラス 10 または UHS-1 以上の Micro SD カード 最大容量：64 GB
出荷時搭載レンズ	
名称	DJI MFT 15mm f/1.7 ASPH
焦点距離 × x	f=15 mm (35 mm 換算値 30 mm 相当)
絞り	7 枚絞り羽根/円形開口絞り
最大絞り値	F1.7
最小絞り値	F16
レンズ構成	9 枚 7 群 (非球面レンズ 3 枚)
撮影距離域	0.2m ~ ∞ (焦点距離基準線から)
マウント	マイクロフォーサーズ
視野角	72°
最大直径	約 57.5mm (2.26 インチ)
全長	約 36mm (1.42 インチ)
重量	約 115g
ジンバル	
制御角度精度	± 0.02°
取り付け	取り外し可能
操作可能範囲	ピッチ：-90° ~ +30° パン：± 320°
最大動作速度	チルト：120° /s パン：180° /s

送信機	
名称	C1
動作周波数	922.7MHz ~ 927.7MHz (日本のみ) 5.725 ~ 5.825GHz; 2.400GHz ~ 2.483GHz
最大通信距離	3.5 km (2.1 マイル) ※遮蔽物が無く見通しが確保された状態
EIRP	10dBm@900MHz, 20dBm@2.4GHz
出力ポート	USB, Mini-HDMI
電源	内蔵バッテリー
充電方式	DJI 充電器使用
2パイロット機能	マスター&スレーブ接続
モバイル端末ホルダー	タブレット、スマートフォン
最大モバイル端末幅	170 mm
出力電力	9 W
動作環境温度	-10°C ~ 40°C (14°F ~ 104°F)
保存温度	3ヶ月未満: -20°C ~ 45°C (-4°F ~ 113°F) 3ヶ月以上: 22°C ~ 28°C (72°F ~ 82°F)
充電温度	0°C ~ 40°C (32°F ~ 104°F)
バッテリー	6000 mAh 2S LiPo
充電器	
モデル	A14-100P1A
電圧	26.3 V
定格出力	100 W
バッテリー (標準)	
名称	インテリジェントフライトバッテリー
モデル	TB47
容量	4500 mAh
電圧	22.2 V
バッテリータイプ	6S LiPo 高電圧バッテリー
出力	99.9 Wh
重量	570 g
動作環境温度	-10°C ~ 40°C (14°F ~ 104°F)
保存温度	3ヶ月未満: -20°C ~ 45°C (4°F ~ 113°F) 3ヶ月以上: 22°C ~ 28°C (72°F ~ 82°F)
充電温度	0°C ~ 40°C (32°F ~ 104°F)
最大充電電力	180 W

バッテリー（オプション）

名称	インテリジェントフライトバッテリー
----	-------------------

モデル	TB48
-----	------

容量	5700 mAh
----	----------

電圧	22.8 V
----	--------

バッテリータイプ	6S LiPo 高電圧バッテリー
----------	------------------

出力	129.96 W
----	----------

重量	670 g
----	-------

動作環境温度	-10°C ~ 40°C (14°F ~ 104°F)
--------	-----------------------------

保存温度	3ヶ月未満: -20°C ~ 45°C (4°F ~ 113°F) 3ヶ月以上: 22°C ~ 28°C (72°F ~ 82°F)
------	---

充電温度	0°C ~ 40°C (32°F ~ 104°F)
------	---------------------------

最大充電電力	180 W
--------	-------

最大飛行時間	約 18 分
--------	--------

ビジョンポジショニング

速度	8m/s 以下（地上 2m の時）
----	-------------------

高度範囲	5cm ~ 500 cm (0.16 ~ 16.4 フィート)
------	---------------------------------

動作環境	適正な明るさ(15ルクス以上)、はっきりとした模様のある地表面
------	---------------------------------

認識高度	0cm ~ 300 cm (0 ~ 9.84 フィート)
------	------------------------------

DJI Go アプリ

モバイル端末システム要件	iOS : バージョン 8.0 以上 Android : バージョン 4.1.2 以上
--------------	---

対応モバイル端末	iPhone 5s/ iPhone 6/ iPhone 6 Plus/ iPad Air/ iPad Air Wi-Fi + Cellular/ iPad mini 2/ iPad mini 2 Wi-Fi + Cellular/ iPad Air 2/ iPad Air 2 Wi-Fi + Cellular/ iPad mini 3/ iPad mini 3 Wi-Fi + Cellular このアプリに最適なデ バイスは、iPhone 5s、iPhone 6、iPhone 6 Plus です。
----------	--

Samsung tabs 705c/ Samsung S6/Samsung S5/

Samsung NOTE4/Samsung NOTE3/ Google Nexus 9/ Google

Nexus 7 II/ Ascend Mate7/ Huawei P8 Max/ Nubia Z7 mini/ SONY Z3

EXPERIA/ MI 3, MI PAD/ Smartisan T1。

* 引き続きテストおよび開発を行っていますので、今後さらにご利用
いただける Android 端末を増やす予定です。

機体ステータスインジケータの説明

正常

 赤、緑、黄色が交互に点滅

電源オンおよびセルフチェック

 緑と黄色が交互に点滅

機体ウォーミングアップ

 緑がゆっくり点滅

安全に飛行可能（GPS およびビジョンポジショニング
が有効な P モード）

 X2…… 緑に 2 回点滅	安全に飛行可能 (ビジョンポジショニングが有効だが GPS は無効な P モード)
 …… 黄色がゆっくり点滅	安全に飛行可能 (GPS およびビジョンポジショニングが無効な A モード)
警告	
 …… 黄色が早く点滅	送信機の信号消失
 …… 赤がゆっくり点滅	ローバッテリー警告
 …… 赤が早く点滅	致命的なローバッテリー警告
 …… 赤が交互に点滅	IMU エラー
 — 赤が点灯	致命的なエラー
 …… 赤と黄色が交互に点滅	コンパスキャリブレーションが必要

インテリジェントフライト

インテリジェントフライトモードには、コースロック、ホームロック、ポイント・オブ・インテレスト (POI)、フォローミー、ウェイポイントなどの機能があり、飛行中にこれらのモードを使って本格的な映像を撮ることができます。コースロックとホームロックを使えば、機体の向きを固定できるので、もっと他の操作に集中することができます。ポイント・オブ・インテレスト、フォローミー、ウェイポイントのモードを使えば、機体は、予め設定した飛行手順に従って自動飛行することができます。

コースロック	現在の機首方向を機体の進行方向として固定します。機体は、方向に関係なく固定された方向 (ヨー角) に飛行します。
ホームロック	スロットルスティックを下に倒すと、機体は記録したホームポイントに向かって進みます。
ポイント・オブ・インテレスト (POI)	機体は、対象物の回りを自動旋回するため、ポイント・オブ・インテレストの対象物の撮影の構図に集中することができます。
ウェイポイント	飛行経路を記録すると、機体は繰り返し同じ経路を飛行するので、操縦者はカメラと方向の操作に集中できます。飛行経路は保存でき、あとでまた使用することができます。

初めてインテリジェントフライトモードを使用する前に、DJI GO アプリを起動して複数飛行モード (Multiple Flight Mode) を有効にします。「カメラビュー (Camera View)」>>「詳細設定 (Advanced Settings)」>「複数飛行モード (Multiple Flight Mode)」に進みます。

ファームウェアのアップデート

機体、送信機、インテリジェントフライトバッテリーのファームウェアのアップデート手順は以下の通りです。

機体のファームウェアのアップデート

ステップ 1 - バッテリーと SD カードの容量を確認します。

インテリジェントフライトバッテリーは最低残量 50% 以上、SD カードは 100MB 以上の空きが必要となります。

ステップ 2-ファームウェアアップデートパッケージの準備

1. ファームウェアアップデートパッケージを DJI 公式サイト (<http://www.dji.com/product/inspire-1>) からダウンロードします。
2. PC に SD カードを挿入し、ダウンロードしたすべてのファイルを SD カードのルートディレクトリ（一番上の階層）へ移します。SD カードを PC から取り外します。機体の電源が入っていないことを確認してから SD カードをカメラの SD カードスロットへ挿入します。

ステップ 3-機体のアップデート

1. 必ず送信機の電源が切れていることを確認してから機体の電源をいれてください。機体の電源が入ると自動的にアップデートが始まります。
2. アップデートが完了するまでおよそ 25 分かかります。アップデート実行中は、ファームウェアのカメラのステータスインジケーターが緑と赤に点滅して、アップデートが完了したら点滅が止まります。
3. アップデート後に自動作成される「.txt」ファイルを確認してください。アップデートが成功していた場合は、「結果：成功 (result: successful)」と記載されています。「結果：失敗 (result: failed)」と記載があった場合やカメラのステータスインジケーターが赤く点灯する場合は、アップデートが失敗なので再度アップデートを行ってください

送信機のファームウェアのアップデート

送信機のアップデートを行う前に、DJI GO アプリが v1.2.0 にアップデートされていることを確認してください。アップデートするファームウェアがある場合、DJI GO アプリのカメラビューにあるシステムステータスバーが数回点滅します。以下の手順に従って、DJI GO アプリを使ってファームウェアをアップデートしてください。

ステップ 1-バッテリーと SD カードの容量を確認します。

1. 送信機のバッテリーは最低残量 50%以上が必要となります。
2. ご使用のモバイル端末がインターネットに接続できる状態でのなければなりません。
3. モバイル端末に 30MB 以上の空きが必要となります。

ステップ 2-ファームウェアのダウンロードとアップデート

1. DJI GO アプリを開き「カメラビュー (Camera View)」>「システムステータスバー (System Status bar)」>「全体の状態 (Overall Status)」に進みます。「ファームウェアアップデートパッケージをダウンロードします」をタップしてファームウェアのアップデートを行います。DJI GO アプリの進捗バーからアップデートの処理状況を確認することができます。送信機のステータス LED は、アップデート中は青に点滅し、アップデートが問題なく完了すると緑に点滅します。

DJI GO アプリを使ったファームウェアのアップデートは、送信機の古いバージョンのファームウェアには対応していません。送信機のファームウェアのアップデートに失敗した場合、以下の指示に従って、従来の方法でファームウェアをアップデートしてください。

- a. DJI 公式サイトから最新のファームウェアパッケージファイルを更新します。
- b. ダウンロードしたすべてのファイルを SD カードか USB メモリのルートディレクトリ（一番上の階層）へ移します。
- c. 送信機の電源を切った状態で、SD カードを SD カードリーダーに挿入するまたは USB メモリを送信機の USB ポートに接続します。
- d. 送信機の電源を入れ、アップデートが始まるまで 60 秒待ちます。アップデート中は、送信機の電源を切らないでください。
- e. ファームウェアアップデートは完了までにおよそ 10 分かかります。アップデート実行中は、カメラからピープ音がし、送信機のステータス LED が青に点灯します。アップデートが問題なく完了した場合は、ステータス LED が緑になりピープ音は停止します。

f. SD カードリーダーをお持ちでない場合は、SD カードをジンバルに挿入し、ジンバルと送信機を接続して送信機のアップグレードを行うことができます。

⚠ この時点以降は DJI GO アプリを使用してのみ送信機のアップデートが可能になります。

インテリジェントフライトバッテリーのファームウェアのアップデート

インテリジェントフライトバッテリーのファームウェアは、機体のファームウェアのアップデート中にアップデートされます。ファームウェアアップデートパッケージは SD カードに保存しておくことをお勧めします。DJI パイロットアプリから促した際、バッテリーのファームウェアは更新されます。機体の電源を入れなおした後に、自動的にアップデートが始まります。

-
- ⚠**
- ファームウェアアップデートパッケージは、SD カード内に 1 つだけ保存するようにしてください。
 - FAT32 や exFAT のファイルシステム用にフォーマットされた記憶装置だけが機体および送信機のファームウェアのアップデートに対応します。
 - ファームウェアアップデートパッケージをダウンロードする場合、ご使用の「モバイル端末とインターネットの接続が安定していることを確認してください。
 - 着信するとアップデート処理が中断されることがあるため、ファームウェアをアップデートする前にご使用のモバイル端末の機内モード (Airplane Mode) をオフにしてください。
 - 機体の飛行中に、ファームウェアのアップデート行わないでください。ファームウェアのアップデートは、機体が着陸している時だけに行ってください。
 - 機体のファームウェアをアップデートした後、必ず送信機のファームウェアを最新のものにしてください
 - 送信機のアップデートを行った後、機体とのリンクが切れることがあります。送信機と機体を接続し直してください。
 - カメラステータスインジケータの点滅状態やジンバルの音でアップデートの結果を確認してください。アップデートの実行中に、機体から音がしたり、LED が点滅したりすることがありますが正常です。
-

取扱説明書の内容は、製品の仕様変更などで予告なく変更される場合があります。

最新版はこちらからダウンロード
www.dji.com/product/inspire-1-pro-and-raw

If you have any questions about this document, please contact DJI by sending a message to DocSupport@dji.com.

© 2016 DJI. All Rights Reserved.

